Faronics™
Simplifying Computer Management

Faronics Insight

COMPREHENSIVE Lab Control

ユーザー·ガイド

最終更新日 :2015 年 9 月

© 1999 - 2015 Faronics Corporation. All rights reserved. Faronics, Deep Freeze, Faronics Anti-Virus, Faronics Core, Anti-Executable, Faronics Device Filter, Faronics Power Save, Faronics Insight, Faronics System Profiler, WINSelect は Faronics Corporation の商標および / または登録商標です。その他すべての会社名および製品名はそれぞれの所有者の商標です。

目次

序文 5

重要な情報 6
Faronics に関して 6
製品の説明書 6
サポート環境 7
テクニカルサポート 8
連絡先情報 8

インストール Faronics Insight 9

インストールの計画 10
インストール開始前には次のような問題を考慮しておきます： 10
Faronics Insight ネットワーク環境構成 14
IP サブネットと VLAN 14
Insight ポートの使用 14
IP マルチキャストまたは IP ディレクテッドブロードキャストとともに利用するように、
Faronics を設定 15
Faronics を設定して Insight コネクションサーバーと併用する 15
Faronics 遠隔教育の設定 18
Faronics Insight を Windows にインストールする 19
教師用コンピュータ上への Faronics Insight のインストール 19
生徒用コンピュータ上への Faronics Insight のインストール 20
MSI を利用して Faronics Insight をスクリプトまたは大量設置する 21
シンクライアント環境で Insight v7.6 をインストール 23
ターミナルサーバのインストール 23
Faronics Insight を NComputing デバイスにインストール 25
L シリーズ 25
X シリーズ 25
U シリーズ 25
Faronics Insight を Windows マルチポイントサーバにインストールする 26
インストール 26
環境設定 26
Faronics Insight を安全モードでインストール 28
パスワード安全モードを選択する 28
アクティブディレクトリ安全モード 29
Faronics Insight を Windows コンピュータからアンインストール 30
Faronics Insight を Mac にインストールする 31
手動インストール 31
自動インストール 32
Faronics Insight を Mac にインストールする 33
Faronics Insight を iOS デバイスにインストール 34
インストール 34
機能 35
Insight を Android デバイスにインストールする 37
インストール 37
機能 37
Faronics Insight を Windows にインストールする 38

インストール 38
機能 38
Insight を Vernier LabQuest デバイスにインストール 40
インストール 40
機能 40
リモートで更新 Faronics Insight 41
選択した生徒の Insight を更新 41
Faronics Insight をキオスクモードで実行 44
Faronics 構成の優先設定 45
教師の優先設定 45
生徒の優先設定 46
ウェブ制限 47
アプリケーション制限 47
キーストローク警告 48
ドライブ制限 48
ネットワーク 48
チャネルの変更 50
Faronics 教師のアップデート 50
Faronics 生徒のアップデート 51
Faronics セキュリティ監視 52
NAL 環境内 Faronics 53
ウェイクオン LAN 対応 54
802.11 ワイヤレスサポート 55
特殊なハードウェア要件 55
その他の Faronics ユーティリティ 57

Faronics Insight の使用 59

始めに 60
Faronics の動作方法 61
クラスリスト内で実施 61
教師用コンピュータを使用する 64
生徒用コンピュータについて 65
ユーザーインターフェースのヒント 66
Faronics Insight 新機能概要 68
Faronics Insight 機能の概要 70
別のコンピュータ上でテストビルダーを使用 80
Faronics セキュリティ監視 81
Faronics 構成の優先設定 82

序文

ご購入いただきありがとうございます。Faronics Insight クラスルーム管理ソフトウェア . Faronics Insight は、先生、教授、トレーナーの方が 21 世紀の教室でより効率よく教えることができるようにアシストするために開発された評価の高いソフトウェアプログラムです。

このインストールガイドは、Faronics Insight クラスルーム管理ソフトウェアと生徒と教師のアシスタントの Apple iPad*、iPhone および iPod 上へのインストール方法を説明したものです。

トピック

重要な情報

*インストール **Faronics Insight***

テクニカルサポート

重要な情報

この項には Faronics 製品についての重要な情報が記載されています。

Faronics に関して

Faronics は、複雑な IT 環境の管理を容易にし、セキュリティを確保する、業界をリードするソリューションをお届けしています。Faronics の製品は、システムの可用性を 100 パーセント確保することで、多くの情報技術専門家の日常業務を劇的に改善しました。学校施設をはじめ、医療機関、図書館、政府組織、または法人企業で Faronics の顧客中心の取り組みによるパワフルなテクノロジー改革を有効に御使用頂いています。

製品の説明書

以下は文書から Faronics Insight クラスルーム管理ソフトウェア書類一式が構成されています：

- *Faronics Insight ユーザーガイド*— この文書は製品の使用方法をガイドするものです。

サポート環境

Faronics Insight は、以下のオペレーションシステムを実行する任意のコンピュータをサポートしています。

Windows 2000, Windows XP-32, Windows Vista-32/64,
Windows 7-32/64、Windows 8.1-32/64、Windows 10-32/64、Windows 2003 および 2008 ターミナルサーバ、Windows MultiPoint Server、シトリクス、NComputing X、L および U シリーズ、Mac OS 10.5 以降。

Mac 用 Faronics 教師用コンソールは、OSX 10.7 以降のバージョンを使う Intel ベースの Mac ハードウェアでしか作動しないことにご注意ください。iPad をサポートし、iPod や iPhone (iOS7 と iOS8)、Android マーケット 2.3、3.0、3.1、3.2、および 4.0。

NComputing デバイス向けのサポートは、設置されている vSpace ソフトウェアのデバイスのモデルとバージョンによります。

このリリースでは新しく、Gnome Desktop と Firefox ブラウザ (3.x または 4.x) を持つ Ubuntu-32/64 バージョン 10 または 11 を作動させている Linux の生徒もサポートしています。サポートされている機能一覧は、「Faronics Insight を Linux にインストール」の項をご参照ください。将来のリリースでは、現存の生徒用ソフトウェアとの完全な同格が計画されています。

教師、生徒両方のコンピュータで Faronics の動作に必要な最低要件は以下の通りです。

プロセッサ

PC: 166 MHz Intel® Pentium® プロセッサ以上のスピード

Mac: Intel ベースの Mac

RAM

- 48 MB / Windows 98 の場合
- 96 MB / Windows 2000 の場合
- 128 MB / Windows XP の場合
- 256 MB / Windows Vista の場合
- 1 GB / Windows 7 の場合
- 1 GB / Windows 8.1 の場合
- 512 MB / Mac OS X の場合
- 512 MB / Ubuntu 10 or 11 の場合

プロトコルスタック

Faronics が動作するすべてのコンピュータは、静的または動的 IP アドレスを実行する TCP/IP で設定されている必要があります。業務用アクセスポイントを推奨しますが、802.11 のワイヤレスにも対応しています。

シンクライアント環境ではサポートされていない機能にご注意ください :

- 無音化
- USB 制限
- 印刷制限
- “Ctrl-Alt-Del” を送信する
- キーストローク履歴の表示
- 電源オン、再起動、停止、ログオフ

テクニカルサポート

このソフトウェアは使い勝手を考え、問題がないように全力を尽くして作成されています。問題が生じた場合には、テクニカルサポートまでご連絡ださい。

ウェブサイト http://support.faronics.com

連絡先情報

- ウェブサイト www.faronics.com
- Email: sales@faronics.com

Faronics Technologies USA Inc.
2411 Old Crow Canyon Road, Suite 170
San Ramon, CA 94583
USAFaronics Insight

Faronics Corporation
609 Granville Street, Suite 620
Vancouver, BC V7Y 1G5
Canada

Faronics Corporation (Europe)
Siena Court
The Broadway Maidenhead
Berkshire, SL6 1NJ UK

インストール Faronics Insight

この章では Faronics Insight クラスルーム管理ソフトウェアのインストール方法を説明しています。

トピック

インストールの計画
***Faronics Insight** ネットワーク環境構成*
***Faronics Insight** を **Windows** にインストールする*
***MSI** を利用して **Faronics Insight** をスクリプトまたは大量設置する*
*シンクライアント環境で **Insight v7.6** をインストール*
***Faronics Insight** を **NComputing** デバイス にインストール*
***Faronics Insight** を **Windows** マルチポイントサーバにインストールする*
***Faronics Insight** を安全モードでインストール*
***Faronics Insight** を **Windows** コンピュータからアンインストール*
***Faronics Insight** を **Mac** にインストールする*
***Faronics Insight** を **Mac** にインストールする*
***Faronics Insight** を **iOS** デバイスにインストール*
***Faronics Insight** を **Windows** にインストールする*
***Insight** を **Vernier LabQuest** デバイスにインストール*
*リモートで更新 **Faronics Insight***
***Faronics** 構成の優先設定*
***Faronics** セキュリティ監視*
NAL** 環境内 **Faronics
*ウェイクオン **LAN** 対応*
***802.11** ワイヤレスサポート*
*その他の **Faronics** ユーティリティ*

インストールの計画

Faronics Insight をインストールする前に、以下の要件を検討し、お使いのネットワークとコンピュータが正常に動作していることを確認してください。インストール中の問題を防ぐためにもこの確認を行ってください。

インストールの計画に 2 ～ 3 分をかければ、各コンピュータへの Faronics のインストールは 2 分以内で実行できるはずです。ほとんどの場合、コンピュータ上で作動中の Insight ソフトウェアは、Teacher または Student 「生徒」または「教師」(大文字で) と表記され、ユーザー、実際の teachers と students 「教師」と「生徒」(小文字) や一般のデバイスとは異なっています。

インストール開始前には次のような問題を考慮しておきます：

使用環境の Insight アーキテクチャを決定する

Insight では、Insight コネクションサーバーと呼ばれるオプションの Insight インストール方法が新しく提供されています。従来の Insight インストールがピアツーピアアーキテクチャに基づいているのに対し、Insight コネクションサーバーは、クライアント – サーバーアーキテクチャに基づいています。Insight コネクションサーバーは、ルーターやワイヤレスアクセスポイントの構成を変更して、ワイヤレス環境や VLAN をサポートする必要性を軽減します。

現存のピアツーピアアーキテクチャは今後も存在し、Insight の優先インストール方法となる場合も多くあります。

Insight はピアツーピアとクライアント – サーバーアーキテクチャが混在するハイブリッド環境もサポートします。

インストールする前に、使用する組織に最適なアーキテクチャを考慮する必要があります。次の点を考慮してください。

ピアツーピア

利点

- サーバー不要で教師と生徒をインストールする簡易クイックインストール
- ネットワークトラフィックの使用量が少ない
- ラボが同じサブネットの場合は構成変更不要
- 単一クラスまたは小規模校に理想的
- 大規模学校区用に拡張可能 (マルチキャストやディレクテッド ブロードキャストを実装するのにネットワークの変更が可能な場合)
- 助長性 (リダンダンシー) が組み込まれたアーキテクチャで単一障害点 (サーバー) なし

弱点

- ルーター無しではサブネットでトラフィックが交差しないので、ワイヤレスアクセス ポイントの変更が必要
- 有線またはワイヤレスネットワークが接続されていない場合は、ブロードキャスト / マルチキャストパケットが両方のネットワークを通過できるように構成の変更が必要

クライアント – サーバー (Insight コネクションサーバー)

利点

- コネクションサーバーは TCP ポート 8080 で通信するため、ルーターまたはアクセス ポイントの変更不要
- オプションとして遠隔教育サポートを有効化可能
- ネットワークが複雑な大規模校または学校区に最適

弱点

- 生徒 500 ～ 4000 人ごとにサーバーが 1 台必要
- サーバーが単一障害点
- ピアツーピアアーキテクチャよりもネットワークトラフィックが若干多い

一部サポートされていない機能とオペレーティングシステム有 (「Insight コネクションサーバーで Insight を設定」参照)

通常クラスルーム / ラップトップカート環境、またはマンツーマン環境から選択する

通常クラスルーム / ラップトップカート環境に関しては、本説明書の後述する通常のインストール指示に従ってください。

生徒 1 人 1 人が自分のコンピュータデバイスを持つ「マンツーマン」環境で Faronics を実行中には、生徒が教師チャネルへチャネルをかえられるようにするか、教師がリストを作成して生徒をクラスに入れさせるようにするかを決定します。

自動的に生徒をクラスに入れるようにすることをお薦めします。

機能は以下の通りです：

1. 全ての生徒のコンピュータを、教師が誰も使用していないデフォルトの「ホーム」チャネルに設定します。
2. 各教師を固有のチャネルに設定します。クラスルームの番号を使うと便利です。
3. 生徒用コンピュータにデフォルトオプションとして、チャネルをかえないようインストールします。
4. クラスリストを手動でまたはダイナミックに作成します。クラスリストは、教師のログイン ID、アクティブディレクトリ名またはコンピュータ名のいずれかに基づいて作成できます。これらリストの作成方法は、*Faronics Insight ユーザーガイド* (users.pdf) に説明されています。
5. 教師用コンソール内で、現在のクラスの生徒を選択するか、適切なクラスリストを読み込んでください。この作業により、一時的に生徒をホームチャネルから教師がログオンしているチャネルに引き出します。
6. クラスを終了します。現在のクラスリストが終了すると、現在のクラスにいる全生徒にホームチャネルに戻るように命じます。クラスを活発に解散することを忘れることは問題ではありませんが、別の教師が生徒を自分のチャネルに集めて自分のクラスリストを読み込むことができます。

各クラスルームに対して独自の教師チャネルを選択します（通常クラスルーム設定)

Faronics Insight は同じネットワーク上で、16,000 ものクラスルームとともに動作するよう設計されています。教師用コンピュータの内容を同じチャネル上の生徒用コンピュータにブロードキャストするためには、教師用チャネルを利用します。インストールを簡素化するために、各クラスルームは独自のチャネルを持つ必要があります。

教師チャネルをテレビのチャンネルのように考えてください。あるチャンネルを受像できるよう設定されたテレビはどのテレビでも同じ番組を受信します。同様に、ある教師チャネルに設定された全ての生徒は同じチャネルに設定された教師からのスクリーンブロードキャストを受信するわけです。ネットワーク上に 1 つの Faronics クラスルームしかなければ、1 から 16,000 の中から任意の番号を選択できます。複数の Faronics クラスルームがある場合は、各クラスルームはそれぞれ独自の教師チャネル番号が必要です。

各クラスルーム用に、教師用コンピュータとなるコンピュータを決定する

通常、ラボ 1 つに 1 台の割合で教師用コンピュータを設定することになります。教師はこのコンピュータを使って、同じクラスルーム内のすべての生徒用コンピュータを制御します。インストールの間に、コンピュータが「教師」または「生徒」用コンピュータのどちらであるかを指定する必要があります。

各ラボには複数の教師用コンピュータを設定することもできますが、行動の「制限」に関して、制限を実行する最初の教師に、同様の制限を実行しようとする以降の教師に対しての優先権が与えられます。なんらかの理由で最初の教師がオフラインになれば、次の教師が制限するアクションが引き継ぎますので、設定を同じにしておくとよいでしょう。教師が現在のチャネルにいる場合、生徒は 20-30 秒間でホームチャネルに戻ります。

全生徒・教師用コンピュータに有効な TCP/IP プロトコルスタックを設定します。

コンピュータが DHCP を使用していれば、DHCP は適切に機能するはずです。教師用と生徒用コンピュータが全て同じ IP サブネットであればベストです。Faronics Insight は静的 IP アドレスで動作しますが、必須ではありません。

教師用と生徒用コンピュータが同じ IP サブネットではない場合、マルチキャストまたは IP ディレクテッドブロードキャストを使用し、スイッチがこれらの機能をサポートしているか確認して下さい。伝送と発見方法に関するさらなる情報については、「インストール Faronics Insight、VLAN 内」の項を参照してください。

良好なネットワークハードウェアおよびソフトウェアを使用する

あなたのクラスルームがすでにネットワークエラーを経験している場合、Faronics Insight は事態をさらに悪化させます。コンピュータにログオンする際、またはネットワーク上でファイルをコピーする際に問題がある場合は、Faronics をインストールする前に問題を解決してください。

業務用アクセスポイントを利用する

ワイヤレス ネットワーク上で Faronics Insight を利用する場合は、業務用のクラスアクセス ポイントを利用することが重要です。通常、100 ドル以下の個人家庭用ネットワークワイヤレスアクセスポイントは多数の接続を処理できるほど頑丈ではありません。生徒の接続を確実に処理可能な 200 ドルから 300 ドルの価格帯のアクセスポイントをお薦めします。

生徒に Faronics Insight アイコンにアクセスさせるかどうかを決定する

生徒に Faronics アイコンにアクセスさせたくない場合は、生徒用のインストールを実行し、*詳細オプション*を選択し、*お忍びモード*を選択します。

安全モードで Faronics を作動させたいか決定してください

Faronics インストールには 2 つのセキュリティモードが提供されています。ひとつまたは両方の安全モードでインストールが可能です。Faronics Insight を安全モードで実行すると、教師は、特定のチャネル上の生徒を見るためにパスワードをタイプする必要があります。もしもこのモードが教師インストールに選択される場合、生徒インストールにも同じモードが選ばれなければなりません。インストールの方法については、この説明書に後述する「Faronics Insight 安全モード内インストール」を参照してください。

Faronics Insight をアクティブディレクトリ安全モードで実行し、*Faronics 教師*が特定のチャネル上の生徒を見る際には、ドメインユーザーグループのメンバーである必要があります。インストールの方法については、この説明書に後述する「Faronics Insight 安全モード内インストール」を参照してください。

Terminal Services、MultiPoint Server、NComputing のいずれかでインストールする必要があるかを決定する

Faronics Insight は、シンクライアント、ファットクライアント、あるいはその混合の環境のいずれでも動作します。シンクライアント対応のインストール方法については、本説明書内で後述するシンクライアント環境で Faronics Insight をインストールの項、または「マルチポイントサーバ内で Faronics Insight をインストール」の項を参照してください。

Mac でソフトウェアをインストールするかどうかを決定する

Faronics 生徒と教師のアプリケーションは Mac 上で動作します。Mac への Faronics Insight のインストール方法は、本説明書内で後述する「Faronics Insight を Mac にインストール」の項を参照してください。

Linux で生徒用ソフトウェアをインストールするかどうかを決定する

Faronics 生徒は、10 または 11 で動作しますが、機能セットには制限があります。Linux への Faronics Insight のインストール方法は、本説明書内で後述する「Faronics Insight を Linux にインストール」の項を参照してください。

iOS デバイスをクラスルームに含めるか決定してください

Faronics は、iPad、iPhone または iPod などの Apple デバイスをクラスルームに含める無料ソフトウェアを提供します。これらデバイスを含める方法については、本説明書内で後述する「iPad、iPhone または iPod を Faronics Insight 上にインストール」の項を参照してください。

Faronics Insight ネットワーク環境構成

デフォルトでは、Faronics は全生徒教師と同じ IP サブネットにあるものとみなします。しかし、教師が生徒と別のサブネット (または別のセグメント) にいるときでも、Faronics が適切に機能するように設定することは可能です。

IP サブネットと VLAN

教師が生徒のコンピュータの別の IP サブネットにいる場合、Faronics が使用するデフォルトの “IP ブロードキャスト ” UDP パケットは生徒により受け取られることはなく、マシンは生徒リスト内で表示されません。代わりに、IP マルチキャストまたは IP ディレクテッドブロードキャストパケットのいずれかを使用するには、教師ソフトウェアの環境設定を行わなければなりません。

IP マルチキャストは、ひとつのデバイス (教師) を持ち、単一デバイスでなく特別の複数キャストアドレスを使い一連の受取人 (生徒) にメッセージを送信する能力をサポートします。IP ディレクテッドブロードキャストは、特別なアドレスで、(適切に形成されている場合) 目的地のサブネットに到着するまであなたのネットワークを単一のディレクテッド UDP パケットに変換します。目的地のサブネットを検索時に、ルーターはパケットを標準的な UDP ブロードキャストパケットに転換します。

どちらの輸送方法でも、まずあなたのネットワークルーターがその機能を作動させるためのサポートを持っているか確認することが大切です。IP ディレクテッドブロードキャストが作動するためには、あなたのルーターは IP ディレクテッドブロードキャストパケットを転送するよう設定されていなければならず (時として、ルーターはこれらを「UDP ディレクテッドブロードキャスト」と称します)、パケットのアドレスが適切に形成されていなければなりません。あなたのネットワークデバイスの機能や環境設定に関するさらなる情報については、ネットワーク管理者に連絡するか、ハードウェアの製造者の説明書を参照してください。

Insight ポートの使用

Insight の主なポート番号は、796 (または 0x31C hex) です。すべての非ステータスブロードキャストとマルチキャストパケットは、このポートに送られます (796)。これらパケット用ソースポートはダイナミックで (時として「一過性」と呼ばれます)、つまり動作時間にて TCP/IP によって決定され、特定することはできません。一般的に、49152–65535 の域になります。すべての Insight PC は、must allow data traffic on ポート 796 上にデータトラフィックを受信するよう許可しなければならず、伝送されたデータが一過性ソケット上で省略するよう意図しないようにしなければなりません。

Insight 教師が特定の生徒にアクションを行っている場合 (

制御、サムネイル、合併、チャットなど)、セッション向き TCP パケットが使用されます。生徒がファットクライアント機械である場合、目的地ポートもまた 796 となります。ソースポートもまた、ダイナミックとなります。

シンクライアントとなるのは特別なケースです。全 UDP 非ステータスブロードキャストとマルチキャストパケットは、まだポート 796 に送信されますが、生徒がシンクライアント生徒の場合、全 TCP パケットはダイナミックポートに送信されます。したがって各生徒用ポートは独自のものです。この場合、教師が TCP パケットをダイナミックポートからダイナミックポートへ送ることが可能です。しかしながら、ターミナルサーバ環境内のほとんどの TCP/IP トラフィックは、同コンピュータ内で起こり、ほぼ内部処理コミュニケーションに留まっています。

追加の UDP ステータスパケットがひとつあり、ネットワーク上の Insight の活動をモニタするために使われています。トラフィックはポート 1053 で開始され、常にポート 1053 に送信されます。ブロードキャストまたはマルチキャストパケットのいずれかです。Insight はステータスパケットなしで動作しますが、機能が減少されます (特に、生徒が時間前にクラスを離籍するのを検知するために使われる登録データパケットがマンツーマン環境にある場合。)

全マルチキャストパケットは、239.0.208.0 から 239.0.208.255 のアドレス域にあります。IP マルチキャストが転送手段として選択される場合、ルーターはデータをこのアドレス域に転送するよう設定されなければなりません。IP ディレクテッドなブロードキャストが選択される場合にも、全トラフィックはポート 796 (0x031C) とポート 1053 (0x41D) (ソースか目的地のいずれか) に、サブネット間を自由に移動できるように設定されなければなりません。

Faronics は、IP ディレクテッド設定内で使用する適切なアドレス決定を手助けするツールを提供します。DirBCastAddr.exe と呼ばれ、インストールパッケージ内にあります。パッケージをアンジップ後、ツールは Windows フォルダ内の「ユーティリティ」サブフォルダ内で見つけられます。ファイルをクリックし、その生徒のサブネットマスクとともにターゲットサブネット上のいずれかの生徒用コンピュータの IP アドレスを入力します。両方のアドレスを入力したら、「計算」ボタンをクリックします。

IP マルチキャストまたは IP ディレクテッドブロードキャストとともに利用するように、Faronics を設定

上記のとおりネットワークデバイスを設定後、Faronics ソフトウェアをその伝送方法で使用するように設定します。

1. 管理者を選択 | 教師用コンピュータ上のコンソールより優先権。
2. ネットワークタブ上で、「データ伝送」の項目内の IP マルチキャスト または IP ディレクテッドブロードキャストを選択します。
3. IP ディレクテッドブロードキャストが優先される方法であるとき、DirBCastAddr.exe ユーティリティが正しいとする決定された IP アドレスを入力します。複数のサブネット上で特定の教師用コンピュータが生徒用コンピュータと通信しなければならない際には、続くサブネットのアドレスを追加します。

各教師インストールは、インラタクトする生徒が所在するサブネットとのみ設定されなければなりません。したがって、3 つ以上のサブネットを持つ環境では、別の教師用コンピュータがネットワーク設定ダイアログ内の別のサブネットアドレスを持つことができるようになり、持つようになります。特定の教師インストールで 3 つ以上のサブネットが必要となるまれなケースでは、テクニカルサポートまでお問い合わせになってさらなるサポートを受けてください。

教師用コンソールを起動することにより、実行を有効化することができます。これはこの時点で、自動的に他のサブネット上の生徒用コンピュータを発見するでしょう。UDP データがネットワークを適切に通過中の場合、教師はスクリーンをブロードキャストできるか、生徒のスクリーンを空白にできます。教師が「生徒リスト」内の生徒のサムネイルを閲覧できたり、リモートで生徒画面を閲覧できたりもする場合には、TCP データもまたネットワークを適切に通過しているということです。Insight は仲間から仲間へのアプリケーションですので、サブネット通過の際には、充分に機能するためには UDP トラフィックと TCP トラフィックの両方が要求されます。

Faronics を設定して Insight コネクションサーバーと併用する

Insight では、Insight コネクションサーバーと呼ばれるオプションの Insight インストール方法が新しく提供されています。従来の Insight インストールがピアツーピアアーキテクチャに基づいているのに対し、Insight コネクションサーバーは、クライアント – サーバーアーキテクチャに基づいています。Insight コネクションサーバーは、ルーターやワイヤレスアクセスポイントの構成を変更して、ワイヤレス環境や VLAN をサポートする必要性を軽減します。

Insight はピアツーピアとクライアント – サーバーアーキテクチャが混在するハイブリッド環境もサポートします。

Insight コネクションサーバーのシステム要件 :

500 ユーザー用

- 常時稼動の専用マシンまたは仮想マシン
- 64 ビット Windows で XP 以降の OS (Windows Server オペレーティング システム推奨) 搭載。
- 固定 IP アドレス
- 4GB RAM
- 100MB イーサネットネットワーク アダプタ
- ポート 8080 (通信) と 8085 (ステータス) がオープンであること
- オプション :Insight AD 安全モード対応

4000 ユーザー用

- 常時稼動の専用マシンまたは仮想マシン
- 64 ビット Windows サーバー
- 固定 IP アドレス
- 16GB RAM
- スイッチでギガビットポートに接続した 1GB イーサネットネットワーク アダプタ
- ポート 8080 (通信) と 8085 (ステータス) がオープンであること
- オプション :Insight AD 安全モード対応

Insight コネクションサーバー設定 :

1. 「マイ コンピュータ」で、Faronics 製品をダウンロードした場所に行き、Windows¥ConnectionServer フォルダ内で *LCS.msi* をダブルクリックします。
2. *次*へをクリックします。
3. 表示されるライセンス契約書を読み、*同意する* をクリックし、*次*へをクリックします。
4. *インストール*をクリックします。
5. *終了*をクリックしてインストールを終了します。
6. インストールが終了すると、Insight コネクションサーバーステータスショートカットがスタート メニューに新たに追加されていることが分かります。Insight コネクションサーバーステータスショートカットを実行し、サーバーの状態を表示します。

Insight 教師用コンソールを Insight コネクションサーバーに接続する :

Insight コネクションサーバーとサブネットが同じ場合

1. 「教師用コンピュータ上への Insight のインストール」に従って、Insight 教師用コンソールのインストールを完了します。
2. Insight 教師用コンソールがコネクションサーバーと同じサブネット上にある場合は、これ以上の設定は必要ありません。Insight 教師が Insight コネクションサーバーを発見します。

Insight コネクションサーバーとサブネットが異なる場合

Insight 教師用コンソールが Insight コネクションサーバーと異なるサブネット上にある場合は、さらに設定が必要です。

1. インストールが完了したら、管理者ドロップダウン メニューから Insight 教師用コンソールを開き、*「優先設定」を選択*します。
2. 「優先設定」ダイアログで *「ネットワーク」タブを選択*します。
3. 「データ転送」を「IP – ディレクティッド ブロードキャスト」に*変更*します。
4. 「サブネット 1」に Insight コネクションサーバーの IP アドレスを*挿入*します。
5. これで、Insight 教師用コンソールは Insight コネクションサーバーのみと通信するように設定されました。
6. 異なるサブネット上で Insight コネクションサーバーおよびブロードキャストと通信する（ハイブリッドモデル）
7. 教師がブロードキャスト Insight 生徒と Insight コネクションサーバーの両方と通信する必要がある場合は、さらに次のステップが必要です。
8. 「IP – ディレクティッドブロードキャスト」内の「データ転送」タブで、「サブネット 2」にブロードキャスト範囲 255.255.255.255 を挿入します。

Insight コネクションサーバーと遠隔教育用に Insight 生徒を設定する :

1. 「教師用コンピュータ上への Insight v7.7 のインストール」に従って、Insight 生徒インストールを完了します。
2. インストール中に詳細設定を選択すると次の新しいダイアログが使用可能になります: Insight コネクションサーバーおよび遠隔教育
3. 「*生徒を Insight コネクションサーバーに接続する*」ボックスをチェックします。
4. Insight コネクションサーバーアドレスを*入力*します。
5. オプション : 遠隔教育を設定するには、「*遠隔教育の補助として Stoneware webRelay も使用する*」ボックスをチェックします。
6. Stoneware webRelay アドレスを*入力*します。
7. インストールの終了後、遠隔教育が設定されていれば、生徒は Insight コネクションサーバーと webRelay を使用して通信します。

現在 Insight コネクションサーバーがサポートしている生徒のオペレーティング システム :

- Windows 2000+
- Mac 10.4+

Faronics 遠隔教育の設定

Faronics はインターネット経由の遠隔教育を提供する最初のクラス管理ベンダです。遠隔教育を利用すると、クラス管理は学校ネットワーク内に制限されなくなります。先生は賞を受賞した Insight の機能を活用して遠距離にいる生徒を指導できるようになります。遠隔教育は Insight と webNetwork の webRelay テクノロジーの利点を組み合わせた完全エンドツーエンドのソリューションです。

Insight 遠隔教育は webNetwork のユニークな二重セキュリティアーキテクチャを活用して、インターネット経由で Insight コネクションサーバーへのエンドツーエンドアクセスを安全に提供します。

1. 遠隔教育が設定されている生徒は、HTTP を使用して webNetwork webRelay に接続します。
2. webNetwork webRelay は TCP を使用して Insight コネクションサーバーに情報を送信します。
3. Insight コネクションサーバーはそれを Insight 教師用コンソールに送信します。
4. Insight 教師用コンソールはこれと同様のモデルを活用して遠隔教育生徒に往信します。

webNetwork webRelay が利用できるインターネット接続さえあれば、世界中どこからでも遠隔教育生徒を見つけることができます。Insight 教師用コンソールは、直接 Insight コネクションサーバーと通信するために学校ネットワーク内に設置する必要があります。

インターネット経由で安全に通信するためには、Insight 遠隔教育の他に別途 webNetwork Unified Cloud Platform の購入が必要になります。詳細は sales@stone-ware.com までお問い合わせください。

Faronics Insight を Windows にインストールする

Faronics Insight には Windows 対応の 2 つのインストールプログラムがあります。

- teacher.msi
- student.msi

Faronics Insight をインストールするには、適切な msi ファイルを教師用コンピュータか生徒用コンピュータに動作させなければなりません。インストールにより、各コンピュータ上の「C:\Program Files\Faronics 」フォルダが作成され、全ファイルはコンピュータ上でローカルに保存されます。

インストールを完了したら、コンピュータが始動するたびに生徒または教師のプログラムが始動します。教師用コンピュータでは、コンピュータ画面の右下隅のシステムトレイの中に、Faronics アイコンが表示されます。小さな、緑色の、円が重なったアイコンです。Faronics の使用を開始するには、ショートカットメニューを右クリックして開くか、Faronics コンソールを左クリックして開きます。

生徒用コンピュータでは、コンピュータ画面の右下隅のシステムトレイの中に Faronics 生徒アイコンが表示されます。カーソルをアイコンの上に置くと、教師チャネルと生徒のコンピュータの IP アドレスが表示されます。

教師用コンピュータ上への Faronics Insight のインストール

1. 「マイ コンピュータ」で、Faronics 製品をダウンロードした場所に行き、Windows フォルダ内で *teacher.msi* をダブルクリックします。
2. *次へ*をクリックします。
3. 表示されるライセンス契約書を読み、*同意する*をクリックし、*次へ*をクリックします。
4. 教師チャネル番号（1 ～ 16,000）を入力し、*次へ* をクリックします。各クラスルームが独自に持っている番号を選択するよう注意してください。
5. 必要があれば、詳細オプションを選択します。「*詳細オプション設定をチェックする*」の欄をチェックします。これらオプションのほとんどは生徒用コンピュータになるときには、教師上でのみ適用されます。
6. 望ましい場合、安全モードオプションを選択します。この説明書に後述する「Faronics Insight を安全モードでインストール」の項目を読んでいない場合、どちらのモードを選択することも要求されておらず、推奨されてもいません。*安全モードを有効化する*の欄をチェックすると、安全モードのどちらか、あるいは両方を選択できるようになります。*安全モードパスワード*が選択されると、教師インストールと生徒インストールの両方がチャネルを指定するためにパスワードを要求します。もしも*アクティブディレクトリ安全モード*が選択されると、教師は Faronics 教師と呼ばれるアクティブディレクトリグループに属しなければならず、あなたの組織の IT スタッフがこれを作成しなければなりません。
7. *インストール*をクリックします。
8. *終了*をクリックしてインストールを終了します。
9. 教師が以前にそのデバイスにインストールされていた場合、現在のファイルを更新するために再起動しなければなりません。

デフォルトでは、教師はチャネルを変更不可能な状態でインストールされています。教師にチャネルを変更させる能力を与えたい場合、または複数チャネルを表示する能力を与えたい場合、製品ダウンロードから Windows フォルダ内の「ユーティリティ」サブフォルダ内にある「EnableChannelSelect.exe」ユーティリティをコピーして、動作させなければなりません。

生徒用コンピュータ上への Faronics Insight のインストール

1. 「マイコンピュータ」内で、Faronics 製品をダウンロードした場所に行き、Windows フォルダ内で *student.msi* をダブルクリックします。
2. *次*へをクリックします。
3. 表示されるライセンス契約書を読み、*同意する* をクリックし、*次*へをクリックします。
4. 生徒を管理する教師チャネル番号 (1 から 16,000) をタイプするか、マンツーマンの環境では生徒デバイスを決定するホームチャネル番号をタイプします。各クラスルームが独自に持っている番号を選択するよう注意してください。*次*へをクリックします。
5. 詳細オプションを設定したい場合は、「*詳細オプション設定をチェック*」欄をチェックします。
6. 適宜、詳細オプションを設定します。
7. *インストール*をクリックします。

   *終了*をクリックしてインストールを終了します。

詳細オプションには、以下の選択肢が含まれます。詳細については、後述する「MSI 経由での Faronics Insight スクリプトと大量設置」にあります。

- 「お忍びモード」- システムトレイアイコンが生徒用コンピュータ上に表示されないようにする
- チャネル変更 - 生徒がオンデマンドのチャネルを変更できるようにする
- キーボード監視なし　-　生徒用コンピュータ上のキーボード監視を解除する
- インターネット監視なし　-　生徒用コンピュータ上のインターネット監視を解除する
- タスクマネージャ / アクティビティ監視を許可　-　生徒用コンピュータ上でのタスクマネージャ / アクティビティ監視を制限

MSI を利用して Faronics Insight をスクリプトまたは大量設置する

teacher.msi または *student.msi* をスクリプトまたはデスクトップ管理ツールから実行したい場合は、Faronics をインストールするためのコマンドラインオプションがあります。*msiexec.exe* を実行すると、機能を有効にするために、各値がヌル値以外の値（1 など）に設定されます。*Msiexe.exe* コマンドラインパラメータは、*msiexec.exe* を実行することで見つかります。*Msiexec.exe* は Microsoft のプログラムです。

- CHANNEL="X"
  教師チャネル X で Faronics をインストールします。「X」は 1 ～ 16000 の整数である必要があります。
- ADVANCED_OPTIONS
  以下の詳細オプションのいずれかを設定するよう要求されています。
- STEALTH_MODE
  ヌル値以外の値に設定時に Faronics アイコンが生徒用コンピュータ上で表示されないようにする詳細オプション
- STUDENT_CHANGE_CHANNEL_MODE
  ヌル値以外の値に設定時に、生徒が教師チャネルを変更できるようにする詳細オプション。
- NO_KEYBOARD_MONITORING_MODE
  ヌル値以外の値に設定時に生徒キーストロークが生徒用コンピュータ上で記録されないようにする詳細オプション。
- NO_INTERNET_MONITORING_MODE
  ヌル値以外の値に設定時にインターネット履歴が生徒用コンピュータ上で記録されないようにする詳細オプション。
- AD_SECURE_MODE
  ヌル値以外の値に設定した場合、教師または生徒はアクティブディレクトリ安全モードに入ります。生徒を管理できるのは、ドメインユーザーグループ「Faronics 教師」のメンバーになっている教師のみです。
- SECURE_MODE
  ヌル値以外の値に設定した場合、生徒用コンピュータに接続するには教師用コンソールにパスワードが入力されなければならない、製品のパスワード安全バージョンがインストールされます。また、生徒用コンピュータもこのモードでインストールされなければなりません。
- パスワード
  安全モードにする際に、パスワードが必要になります。
- PASSWORD_CONFIRM
  パスワード安全モードにする際に、パスワードの確認が必要になります。
- TASK_MANAGER_LIMIT
  ヌル値以外の値に設定した場合、教師がタスクマネージャとアクティビティ監視を制限するかしないかを決定できる詳細オプション。
- ENABLECHANNELSELECT
  ヌル値以外の値に設定した場合、ひとつまたは複数のクラスルームを見るために教師はチャネルを変更できます。
- LCS=Insight コネクションサーバーの IP アドレス
  Insight コネクションサーバーと通信するように生徒を設定します
- RELAY=webNetwork webRelay サーバーの IP アドレス
  生徒がインターネット経由で Insight 遠隔教育に参加できるように webNetwork webRelay と通信するように生徒を設定します

- ONLY_INSTALL_UPGRADE（Student.msi のみ）
  1 に設定した場合、現在の生徒に student.msi を使用すると、アンインストールではなく、アップグレードします。

例えば、test」というパスワードを使って、チャネルは変更可能だが 3 チャネルで開始するというパスワード安全モードの教師用を無音でインストールしたい場合、スクリプトは次のようになります。

```
Msiexec.exe /i "<path to teacher.msi>\teacher.msi" /qn ADVANCED_OPTIONS=1 SECURE_MODE=1 PASSWORD=test
PASSWORD_CONFIRM=test CHANNEL=3 ENABLECHANNELSELECT=1
```

シンクライアント環境で Insight v7.6 をインストール

Faronics Insight はターミナルサーバ、NComputing、MultiPoint server、またはシトリクス環境をサポートしています。Faronics はシンクライアントコンピュータを生徒および / または教師用コンピュータとして使用可能にします。クラスルームではシンクライアントコンピュータと従来のクライアントコンピュータ（「ファットクライアント」）を自由に組み合わせて使用できます。

ターミナルサーバのインストール

ターミナルサーバのインストールは次の 2 つの手順で実行します。まず、ターミナルサーバ上で、*TerminalServer.msi* を実行する必要があります。この作業により、全て必要なファイルがターミナルサーバにコピーされますが、ターミナルサーバクライアントコンピュータを教師用または生徒用として設定することはありません。

ターミナルサーバが「実行)」モードになっていれば、「インストール後」のダイアログが表示されます。Faronics Insight はターミナルサーバにインストールできるよう設計されていますので、このダイアログを完了させる必要はありません。いつでも、ダイアログ内の「*キャンセル*」ボタンを押してかまいません。

この第一手順を完了したら、Faronics ファイルはターミナルサーバにコピーされています。使いたい各シンクライアントのコンピュータ上で動作するよう Faronics を適切に設定する必要があります。次の 3 つの方法のいずれかでこれを実行します。

1. 生徒または教師の手動環境設定
   管理者の権限を使ってシンクライアントにログインし、*SetupTSClient.exe* 環境設定を実行します。クラスルーム内の各シンクライアント デバイスでこの手順を繰り返します。
2. 生徒または教師のスクリプト環境設定
   SetupTSClient.exe ユーティリティをスクリプトすることができます。以下のコマンドラインオプションが認識されます：

#X	「X」が希望チャネル番号である場合、教師チャネルを環境設定します。
StUdEnT	Faronics 生徒ソフトウェアをログイン時に実行するシンクライアントデバイスを環境設定します
TeAcHeR	Faronics 教師ソフトウェアをログイン時に実行するシンクライアントデバイスを環境設定します
PaSsWoRd	セキュリティパスワードの指定を可能にします
アンインストール	シンクライアントデバイスが Faronics ソフトウェアに読み込みできなくなるように環境設定します
QUIET	サイレント環境設定を実行します（これは指定された最後のオプションでなければなりません）

3. LskTSDat.ini file

以前の「手動環境設定」が Faronics 環境設定ファイル (C:\Program Files\Faronics \ LskTSDat.ini) を編集します。各シンクライアント上で *SetupTSClient.exe* の実行を希望しない場合、ノートパッドのようなテキスト編集ソフトで直接 *LskTSDat.ini* ファイルを編集できます。

ファイル内に各シンクライアント用にエントリーがあり、これが Faronics 生徒または教師用のソフトウェアのいずれかを実行します。.ini ファイルのフォーマットは次の通りです：

[Faronics TSClient List]

THINCLIENT001001=Teacher, Channel=1, Name=Teacher1

THINCLIENT 001002=Student, Channel=1, Name= THINCLIENT001002

THINCLIENT 001003=Student, Channel=1, Name= THINCLIENT 001003

THINCLIENT 001004=Student, Channel=1, Name= THINCLIENT 001004

DEFAULT=Student, Channel=1, Name=Default

各ラインの最初の部分 (この例では THINCLIENT001001) はそのシンクライアントの「クライアント名」です。各シンクライアントデバイスには、製造業者が設定した、あるいはハードウェア環境設定時に設定された独自のクライアント名があります。この名前は、デバイスにログインし、コマンドプロンプトから「設定」コマンドを入力して見つけられます。多くの IT 部門では、各シンクライアントデバイスのクライアント名のリストがあります。

クライアント名「デフォルト」はデフォルト設定として使用することが可能です。シンクライアントが *LskTSDat.ini* ファイル内でシンクライアントを見つけられない場合、デフォルト入力の環境設定であると推測します (もしそのような入力が存在する場合)。

注意：シンクライアントデバイスの中にはデバイスに独自のクライアント名を設定する環境設定が必要な場合があります。Faronics は全てのシンクライアントデバイスに独自のクライアント名を持たせる必要があります。シンクライアントデバイスの書類を確認し、各デバイスが独自のクライアント名を所有していることを確認して下さい。

クライアント名をタイプした後は、シンクライアントデバイス上で実行する Faronics ソフトウェアのタイプです（生徒または教師のいずれか)。次のパラメータがそのシンクライアントに使用する Faronics チャネルを定義します。一般的に、同じクラスルーム内にあるシンクライアントのデバイスはすべて、同じチャネル番号を持っています。

最後のパラメータは Faronics 表示名を定義します。生徒はログイン名とこの名前の両方と一緒に教師用コンソールに表示されます。デフォルトでは、クライアント名を使いますが、もっと意義深い名前を希望する場合、変更が可能です。

負荷バランシングの場合（複数のターミナルサーバが同じクラスルームで使われている）には、全ターミナルサーバに Faronics ソフトウェアをインストールし、次に、完了した *LskTSDat.ini* ファイルを全ターミナルサーバに複製する必要があります。もし多くのターミナルサーバの負荷バランスが同じである場合、共通の *LskTSDat.ini* ファイルを共有するように Faronics を環境設定することが可能です。指示を受けるためには Faronics サポートまでご連絡下さい。

Faronics Insight を NComputing デバイスにインストール

NComputing は、各バーチャルデスクトップをホストする中央サーバに、直接またはイーサネット経由で多数のアクセスデバイスを提供します。これらデバイスには、L、U および X シリーズのコンピュータが含まれます。NComputing デバイス向けのサポートは、設置されているハードウェアの世代と vSpace ソフトウェアのデバイスモデルとバージョンによります。サポートはどちらかと言うとダイナミックであるため、このバージョンの Faronics とサポートされているハードウェアモデル、オペレーティングシステムおよび vSpace の組み合わせについての最新情報は、FAQ ページ上の NComputingpage マトリクス、http://support.faronics.com を参照してください。

L シリーズ

L シリーズのプラットフォームでは、単独のホストコンピュータを最大 30 ユーザーで共有できます。標準イーサネットインフラストラクチャにより、クライアントハードウェアはホストに帰属しています。L シリーズ構造は標準ターミナルサーバと同様なため、初めに Faronics ファイルを TerminalServer.msi パッケージが入った L シリーズのホストコンピュータにコピーしなければなりません。

X シリーズ

X シリーズのプラットフォームでは、単独のコンピュータを最大 11 ユーザーで共有できます。ホストマシンには、X シリーズ PCI カードが最大 2 枚インストールされています。ソフトウェアをホストの全てのクライアントにインストール後、ホストを再起動し、全てのユーザーは再度ログインします。インストールの方法はターミナルサーバのインストール（上記に詳細説明済み）の方法と同様です。初めに Faronics ファイルを *TerminalServer.msi* パッケージが入ったホストコンピュータにコピーしなければなりません。それから *SetupTSClient.exe* ユーティリティを使用してクライアントマシンの環境設定を行います。

U シリーズ

U シリーズプラットフォームは、ステーションが Windows マルチポストサーバに接続でされているときにのみサポートされます。

シンクライアントにおける制限

シンクライアントに対して全ての Faronics 機能を実施できるように努力をしていますが、制限もあります。以下はシンクライアント上で動作しない機能をまとめたリストです。

- 無音化
- USB 制限
- プリンター制限
- 電源
- シャットダウンまたは再起動
- 生徒チャネルの変更 (現在 .ini ファイルから可能）
- 生徒表示名の変更 (現在 .ini ファイルから可能）
- 拡張生徒硬化（シンクライアントデバイスはサーバからロックダウンされると仮定）

Faronics Insight を Windows マルチポイントサーバにインストールする

Faronics Insight の新しいものに、Windows Multipoint 2011 サーバ用教師特別プラグインバージョンがあります。Windows Multipoint 2010 のインストールと違い、新バージョンは なじみのある Faronics アイコンでマルチポイントマネージャ内に起動ポイントを作成します。このアイコンを選択すると、教師は簡単に同じインターフェースで　WMS 2011 と Faronics Insight 製品の両方の全機能にアクセスすることが可能になります。

インストール

1. Windows マルチポイントサーバ 2010 では、サーバをメンテナンスモードで起動します。自動的にそのモードに切り替わるため、2011 バージョンではこのステップは必要ありません。
2. 管理者としてログインする。
3. Faronics 製品ダウンロードのロケーションに行き、「マルチポイントサーバフォルダ」から MutipointSever2010.msi または MultipointServer2011.msi をダブルクリックします。
4. これにより、すべての必要なファイルがサーバにコピーされ、すべての必要なレジストリ値が設定されます。選択可能なインストールオプション詳細については、「MSI 経由での Faronics Insight スクリプトまたは大量設置」の項にあります。これは MultiPoint.msi パッケージにも適用されます。

環境設定

デフォルトでは、Faronics 管理者グループの一員であるいずれのメンバーもログイン時に Faronics 教師用コンソールを作動させます。管理者グループの一員でない全メンバーは、ログイン時に Faronics 生徒用コンソールを作動させます。

デフォルトアクションを 3 つのオプションのローカルユーザーグループで作成・配置させることが可能です。

ローカルユーザーグループ

- Faronics 生徒
- Faronics 教師
- NotTeacherOrStudent

上述の 3 つのオプションのローカルユーザーグループで例外を作成することができます。

ユーザーが教師または生徒用ソフトウェアのいずれも動作させないことになっている場合、そのユーザーをローカルユーザーグループ「NotTeacherOrStudent」の一員として追加します。

ユーザーが教師ソフトウェアを動作させることになっているが管理者グループの一員でない場合、そのユーザーをローカルユーザーグループ「Faronics 教師」に追加します。

同様に、管理者グループの一員であるが生徒用ソフトウェアを動作させるべきではない場合には、そのユーザーをローカルユーザーグループ「Faronics 生徒」に追加されます。

ドメインユーザーグループ

ユーザーがドメインにログインした場合 (これはマルチポイントサーバ 2010 または 2011 のボリュームライセンスビルドでのみサポートされています)、ローカルユーザーグループを探す前にドメインユーザーグループ内のグループメンバーシップがまずチェックされます。チェックされるドメインユーザーグループは：

- ドメイン管理
- Faronics 教師
- Faronics 生徒
- NotTeacherOrStudent

制限

マルチポイントサーバは各ターミナルデバイス用に独自「クライアント名」を提供しないため、「クラスルームレイアウト」機能には対応していません。

Faronics Insight を安全モードでインストール

Faronics Insight は、希望に応じて追加レベルのセキュリティをインストールする能力を持っています。2 つのモードが利用でき、「パスワード安全」と「アクティブディレクトリ安全」、そしてその一方または両方を選択することができます。オプションが適切にインストールされていない場合、教師が望むチャネル上で通信できず、生徒にアクセスできなくなります。

パスワード安全モードを選択する

このモードには , 特定のチャネルの生徒を見るコンソールが立ち上げられると、教師がパスワードを入力しなければならない機能が付いています。この機能により、非認証コンソールの使用を防ぐ特別な安全レベルを追加します。

インストールステップ：

1. *teacher.msi* または *student.msi* ファイルのいずれかをダブルクリックし、上述のとおりインストールを設定します。パスワードで保護されたバージョンをインストールする場合には、*安全モードを有効化する*欄をチェックしてください。
2. *安全モードを選択する。*
3. パスワードを入力し、確認のため再度入力してください。
4. 教師用または生徒用のコンピュータにこれらのステップを繰り返します。

教師用コンピュータが「生徒になる」機能を使い、なおかつ安全であるためには、教師用インストール上でパスワードが要求されます。

教師がコンソールを立ち上げる、またはチャネルを変更する際に、特定のチャネルやチャネルのグループ上の生徒を見るためにはパスワードが要求されます。

スクリプトまたはアクティブディレクトリを使用して教師用または生徒用コンピュータ上にパスワード保護バージョンをインストールするには、「MSI を利用して Faronics Insight をスクリプトまたは大量設置する」の項を参照して下さい。

.adm テンプレートを Insight 安全バージョンで使用するには、コンピュータポータルにログインし、.adm ファイルのパスワード欄に入れるキーを生成しなければなりません。

パスワード安全モードで、教師または生徒のみで、両方がインストールされていない場合、教師は生徒にアクセスできません。これは、生徒アイコンの「セキュリティロックアウト」アイコンに表示されています。生徒のバージョン番号をチェックすると、これが当てはまるか確認することができます。生徒システムトレイ内のアイコンの上にマウスを当てると、次のようにバージョン番号が表示されます：

v7.6.0.53Ls、v7.6.0.53Sd または v7.6.0.53Sds

小文字が安全識別で、「s」は「パスワード安全モード」を、「d」はアクティブディレクトリバージョン番号」を示します。大文字の L と S は、実際には安全識別子ではなく、選択されている Insight インストールを意味しています。L はライトバージョンの意味で、S はサブスクリプションライセンスの意味です。システムは、安全モデルに合致しないデバイスをロックアウトします。安全ロックアウトの問題を修正するには、安全モードオプションを修正するため生徒は再起動しなければなりません。

注意：教師のパスワードが漏れた場合、新しいパスワードで教師用と生徒用の両方を再インストールする必要があります。

アクティブディレクトリ安全モード

認証された教師のみが生徒を制御できるようにするため、Faronics Insight は Windows アクティブディレクトリに挺入れできます。このモードは、非認証コンソールの使用を防ぐ特別な安全レベルを追加します。また、このモードはアクティブディレクトリードメイン環境で Windows 2000 以降のシステムでのみ機能します。

このモードを完全に環境設定するには、ドメインユーザーグループを作成・追加するドメイン権利をもっていなければなりません。

インストールステップ：

1. *teacher.msi* または *student.msi* ファイルのいずれかをダブルクリックし、上述のとおりインストールを設定します。パスワードで保護されたバージョンをインストールする場合には、*安全モードを有効化する*欄をチェックしてください。
2. *アクティブディレクトリ安全モード*を選択します。
3. 教師用または生徒用のコンピュータにこれらのステップを繰り返します。

スクリプトまたはアクティブディレクトリを使用してアクティブディレクトリ安全モードを教師用または生徒用にインストールするには、「MSI を利用して Faronics Insight をスクリプトまたは大量設置する」の項を参照して下さい。

このモードの時に、教師は必ず「Faronics 教師」のドメインユーザーグループのメンバーでなければなりません。教師がそのグループのメンバーでない場合、アクティブディレクトリ安全モードの生徒はその教師とはインタラクトできません。

適切な Windows サーバ 2003 または 2008 アクティブディレクトリツールを使って「Faronics 教師」ドメインユーザーグループを作成します。グループを作成後、適切な教師と一緒にグループを表示するために同じツールを使うことができます。

パスワード安全モードは、生徒と教師両方がこのオプションでインストールされていることを要求しますが、アクティブディレクトリモードは少し違います。生徒がアクティブディレクトリ安全モードを有効化しているとき (または「Insight 教師」グループの一員でないとき)、アクティブディレクトリ安全モードでインストールしていない教師は安全ロックアウトされます。この制限は反対方向では行われません。アクティブディレクトリ安全モード教師 (「Insight 教師」グループの一員) は、アクティブディレクトリ安全モードを有効化していない生徒を制限なしに制御することができます。

注意：アクティブディレクトリ安全モードは Mac ユーザーの教師や、Linux または Mac の生徒にはご利用いただけません。

Faronics Insight を Windows コンピュータからアンインストール

Faronics ソフトウェアが許可を受けずに削除されることを防ぐために、インストールは改ざん不可になっています。よくある Windows 内の追加や除去のプログラムを使用する代わりに、Faronics ではソフトウェア削除の際にはオリジナルのインストールパッケージがなければなりません。

.msi install インストールパッケージは、トグルスイッチのような働きをします。Faronics Insight を Windows コンピュータからアンインストールするには、製品を最初にインストールしたのと同じファイルをダブルクリックし、インストールプログラムを再度インストールするだけです。これによりソフトウェアは削除されます。ファイルを選択し再作動させると、ソフトウェアは再インストールされます。

ダウンロードパッケージが手元にない場合、カスタマーポータル内のカスタマーアカウントから再度ダウンロードします。ご自分のアカウントにアクセスできない場合、テクニカルサポートにお問い合わせいただくと .msi ファイルの写しを提供いたします。インストールされているソフトウェアの完全なバージョンを知っている必要があります。これは、教師用コンソールの生徒リスト表示内、またはローカルではシステムトレイ内の Faronics アイコンの上にマウスを当てて見ることができます。このリリースのバージョンは、7.6.0.48 といったものになるでしょう。

生徒たちが「お忍びモード」でインストールされている場合、Insight アイコンはシステムトレイ内に表示されません。生徒が「お忍びモード」でインストールされているか調べるには、教師用コンソールのリストに記載されているか参照するだけです。なんらかの理由で記載されていないがインストールされている場合、確認方法はふたつあります。生徒のタスクマネージャにアクセスできる場合 (通常は Ctrl-Alt-Del を使うとできます)、student.exe と呼ばれるプロセスのもとにエントリーがあり、これにより Insight がインストールされていることが分かります。

タスクマネージャにアクセスできない場合、「生徒診断」と呼ばれるサポートフォルダにユーティリティがあります。このプログラムを生徒用コンピュータで動作すると、最初に利用できるテストは「ローカルインストールのテスト」です。このテストでは、Insight がインストール・作動しているか、またチャネル番号やバージョン、その他関連データが分かります。このツールを使用の際にはテクニカルサポートに問い合わせてヘルプを受けてください。

「マイ コンピュータ」で、Faronics 製品をダウンロードした場所に行き、*teacher.msi* をダブルクリックします。

1. 教師用コンソールでは *teacher.msi.* を動作してください。生徒用コンソールでは *student.msi.* を動作してください。
2. ソフトウェアを削除するよう指示されますので、*次に*をクリックしてください。
3. *削除*をクリックします。
4. *終了*をクリックします。

スクリプトを使って無音で Faronics Insight をアンインストールするには、以下のパラメータで Msiexec.exe を動作させます :

Msiexec.exe /x “< パスから teacher.msi>\teacher.msi” /qn へ

Msiexec.exe /x “< パスから student.msi>\student.msi” /qn へ

Faronics Insight を Mac にインストールする

Faronics Insight は、Mac コンピュータ上の生徒に対して、教師としてまたこのプラットフォームを動作させている生徒のサポートとして監視・管理の両方を行う能力を持っています。このリリースの新しい点として、Mac OS X 10.7 Lion 最新バージョン向けのサポートがあります。Mac 10.4 または以降のインストールプロセスは Windows のインストールに似ていますが、少し違いがあります。

手動インストール

カスタマーポータルから Faronics インストールファイルをダウンロードし、そのファイルを解凍します。

教師のコンピュータへのソフトウェアのインストールは次の手順で行います：

1. Mac フォルダから *insight_teacher.dmg* を Mac 教師用コンピュータにコピーします。
2. *insight_teacher.dmg* をダブルクリックします。
3. *insight_teacher.pkg* をダブルクリックします。
4. ソフトウェアライセンス契約のインストールウィザードに従います。ライセンスの条件を読んだら、*継続*と*同意*を選択します。
5. 教師のチャネル番号（1 ～ 16,000）を入力します。各クラスルームに固有の番号を選びます。
6. 希望する場合、欄をチェックして*詳細オプション*を設定します。これらオプションは、前述の「MSI を経由して Faronics Insight スクリプトまたは大量設置」の項と同じです。また、これらオプションは教師が生徒になるケースと関連しています。
7. *「続行」をクリックします。*インストールロケーションは変更できません。Faronics をシステムドライブに必ずインストールしてください。
8. *インストールをクリックします。*インストーラが、コンピュータの管理者証明書を尋ねてきます。ユーザー名とパスワードを入力して、*OK* をクリックします。
9. インストール成功後に*閉じる*をクリックします。

デフォルトでは、教師はチャネルを変更不可能な状態でインストールされています。教師にチャネル変更権や複数のチャネル閲覧を許可したい場合、*insight_teacher.dmg* 内のユーティリティフォルダ内にある EnableChannelSelect ユーティリティを動作させなければなりません。

生徒のコンピュータへのソフトウェアのインストールは次の手順で行います：

1. Mac 生徒用コンピュータへ *insight_student.dmg* をコピーします。
2. *insight_student.dmg* をダブルクリックします。
3. *insight_student.pkg* をダブルクリックします。
4. ソフトウェアライセンス契約のインストールウィザードに従います。ライセンスの条件を読んだら、*継続*と*同意*を選択します。
5. 欄をチェックして生徒を望むように設定してください。利用可能なオプションのリストと説明については、「MSI を経由して Faronics Insight スクリプトと大量設置」の項を読み返してください。
6. *続行をクリック。*インストールロケーションは変更できません。Faronics をシステムドライブに必ずインストールしてください。

7. *インストールをクリックします。*インストーラが、コンピュータの管理者証明書を尋ねてきます。ユーザー名とパスワードを入力して、*OK* をクリックします。
8. インストール成功後に*閉じる*をクリックします。

注意：ファイルボールトがオンになっているユーザーアカウントからインストールされた場合、Mac 生徒用インストールは適切に動作しません。これは Apple のバグで、「Insert the <username> disk(ユーザー名ディスクを挿入してください)」と表示されます。

自動インストール

insight_teacher.pkg および *insight_student.pkg* はデスクトップ管理アプリケーションを使って , カスタマイズしてインストールすることもできます。

このパッケージのカスタマイズは、次の手順に従います：

1. *insight_teacher.dmg* または *insight_student.dmg*. をダブルクリックします。
2. 「*カスタムパッケージを作成*」をダブルクリックします。
3. インストール ウィザードに従い適切なオプションを選択します。
4. パッケージに名前を付け保存します。

この作業により、選択した設定でインストールされたカスタムパッケージが作成されます。

注意：Mac OS X 10.4 Tiger は、空白の画面が機能するよう許可するようサポートを API に対して行いません。また、ログイン時の「教師を表示」もサポートしません。

Faronics Insight を Mac にインストールする

Faronics ソフトウェアが許可を受けずに削除されることを防ぐために、インストールは改ざん不可になっています。これを行うには、Faronics はソフトウェアをアンインストールするために、トグルスイッチのような役割を果たすオリジナルのインストールパッケージを必要とします。製品インストール時に使ったものと同じインストールプログラムを再度動作させるファイルを選択するだけです。これによりソフトウェアは削除されます。ファイルを選択し再作動させると、ソフトウェアは再インストールされます。

ダウンロードパッケージが手元にない場合、カスタマーポータル内のカスタマーアカウントから再度ダウンロードします。ご自分のアカウントにアクセスできない場合、テクニカルサポートにお問い合わせいただくと .msi ファイルの写しを提供いたします。インストールされているソフトウェアの完全なバージョンを知っている必要があります。これは、ソフトウェアの About メニューアイテムで見つけることができます。このバージョンは、7.6.0.53 に似ています。

「マイ コンピュータ」で、Faronics 製品をダウンロードした場所に行き、*teacher.msi* をダブルクリックします。

1. 教師用コンピュータを使っている場合、*insight_teacher.dmg*. を動作させます。
2. 生徒用コンピュータを使っている場合、*insight_student.dmg* を動作させます。
3. *インストール*をクリックします。
4. *はい*、*アンインストールします*をクリックします。
5. 管理者ユーザー名とパスワードをタイプしてください。
6. *OK* をクリック。

Faronics Insight を iOS デバイスにインストール

Insight は、Apple iPad、iPhone または iPod 用に生徒と教師向け無料アシスタンスを提供しています。以下の能力は、現在の Insight v7.5 および以降の環境でしか動作しません。

インストール

生徒インストールは、Apple の iTunes App Store から簡単にダウンロードできます。教師アシスタントインストールは 2 つのステップで行われます。

1. デバイスからは、Insight 教師アシスタントを App Store からダウンロード、インストールします。
2. Windows または Mac コンピュータのいずれかに動作している Insight 教師用コンソールの教師アシスタントのペア。

教師アシスタントと教師用コンソールをペアにする

教師アシスタントと教師用コンソールをペアすることは、以下の理由できわめて重要です：

- 教師アシスタントは、最初に教師用コンソールとペアにされていないと生徒を見つけることができません。
- 生徒インターネットアクセスを制限、またはアプリケーション使用を制限する設定は、教師用コンソールから読めます。

iOS 教師アシスタントと教師用コンソールをペアにする

1. Insight 教師用コンソールを Windows または Mac コンピュータ上に起動します。
2. 管理者メニューから、「教師アシスタントを管理する」を選択します。iOS デバイスを承認するウィンドウが起動されます。
3. iOS デバイスを組織のワイヤレスネットワークに接続します。
4. iOS デバイス上の教師アイコンをクリックして、教師アシスタントを起動します。
5. iOS デバイスがネットワーク上で利用できる教師用コンピュータを見つけ、リストします。適切な教師用コンピュータをリストから選択します。
6. iOS デバイス上にパスコードが生成され、表示されます。
7. PC または Mac の「教師アシスタントを管理する」ダイアログ内に I、iOS デバイスがウィンドウ内に表示されます。デバイスを選択し、「承諾する」をクリックします。
8. iOS デバイス上で生成されたパスコードをタイプし、OK をクリックしてください。

教師アシスタントが教師用コンソールとペアになると、アシスタント起動時には常に自動的にペアが発生します。iOS デバイスと教師のペアを中止するには、「教師アシスタント管理」メニュー内の iOS デバイスを選択肢、「削除」をクリックします。

ペア作成が完了すると、教師アシスタントは教師チャネル上の全生徒用コンピュータを見つけ、適切な機能設定をダウンロードします。この時点で、教師アシスタントは生徒用コンソールが閉じられていても機能を行うことができます。しかし、教師アシスタントのアプリケーションが閉じられていると、教師アシスタントのアプリケーションを再開する前に、Mac または PC で教師用コンソールを開始しなければなりません。

機能

教師用コンソールとペアになっている教師アシスタントのアプリケーションは、以下の機能を行うことができます：

- 生徒用コンピュータを見つける
- 生徒画面のサムネイルを表示する
- 画面をブランクにする
- 投票する
- ウェブを制限する
- アプリケーションを制限する
- メッセージの送信
- 詳細を表示する
    - •最後に使われたアプリケーション
    - •最後に訪問されたウェブサイト
    - •電池情報
- 生徒の質問
- テスト送信
- 生徒をリモートコントロールする
- 教師をリモートコントロールする

生徒用コンピュータで機能を実行するには、ひとりの生徒を選択するか、全生徒を選択するかのどちらかができます。学生を選択するには、サムネイルに触るだけです。選択を解除するには、再びサムネイルに触ります。サムネイルが直接選択されない場合、全選択が実行されます。

適切なサムネイルを選択したら、有効化したい機能のアイコンに触ってください。この機能をオフにするには、機能のアイコンにもう一度触ってください。ある機能を設定したい場合には、数秒間機能アイコンをタッチし続けると設定ダイアログが表示されます。

画面をブランクにする

ブランクの画面メッセージは教師用コンソールから引き出されません。しかし、メッセージは、「設定」メニューまたはメッセージ選択欄を数秒間タッチし続けるかのいずれかの方法で教師アシスタントから修正、選択することができます。

投票する

◯ × 式、多項選択または口頭による質問を生徒に送ることができます。生徒の結果は教師アシスタントにリアルタイムで表示されます。

メッセージの送信

カスタマイズのメッセージを、1 名、複数、または生徒全員に送信することができます。生徒を選択するか、生徒を選択せずに「メッセージ送信」アイコンに触り、「全員に実行する」を使用します。メッセージを入力するか、現存のメッセージを選択し、「送信」ボタンを押します。

アプリケーションを制限する

教師アシスタントが教師用コンソールとペアになっているとき、現在のアプリケーション制限設定が教師アシスタントにダウンロードされます。選択される生徒へのアプリケーションを制限するには、アプリケーション制限のアイコンに触ってください。アプリケーション制限のアイコンはサムネイルに表示されます。アプリケーション制限を停止するには、アプリケーション制限のアイコンに再度触れてください。

ウェブ制限

教師アシスタントが教師用コンソールとペアになっているとき、現在のウェブ制限設定が教師アシスタントにダウンロードされます。選択される生徒へのウェブを制限するには、ウェブ制限のアイコンに触ってください。ウェブ制限のアイコンはサムネイルに表示されます。ウェブ制限を停止するには、ウェブ制限のアイコンに再度触れてください。

詳細を表示する

電池情報、最後に使ったアプリケーションや最後に訪問したウェブサイトのような生徒についての詳細を表示するには、サムネイルを 2 回軽く叩いてください。

生徒の質問

生徒は、自分のコンピュータ上の Insight アイコンをクリックし、教師への質問をタイプすることにより、電子的に挙手することができます。その質問は教師アシスタント上に表示されます。

Insight を Android デバイスにインストールする

Insight は Android タブレットやスマートフォン用に無料生徒アプリを提供しています。以下の機能は、現在の Insight v7.7 および以降の環境でしか動作しません。

インストール

生徒版のインストールは Google プレイストア（旧 Android マーケット）から簡単にダウンロードできます。Android デバイスから Google プレイストアにログイン後、Insight 生徒をダウンロード、インストールします。Android は v7.7 のブロードキャストモードでのみサポートされています。

機能

Insight Android 生徒で利用可能な機能：

- 教師用コンソールで Android 生徒サムネイルを表示
- 「教師を表示」画面のブロードキャストを受信
- 教師からメッセージを受信
- Insight 教師が実施するテストの受信
- 教師に質問する
- リアルタイムの提出に往信する
- クラスのチャネル変更
- 在庫情報の収集
    - ·現在起動中のアプリケーション
    - ·ネットワーク情報
    - ·電池情報

Faronics Insight を Windows にインストールする

Faronics Insight の新しいものとして、32 または 64 ビットの Ubuntu Students、v10 または 11.x をサポートしています。現在、FireFox 3.x or 4.x を動作させているクラッシックモード (Unity は現在のところサポートされていません) 内のデスクトップにてサポートされています。将来のリリースでは、Windows と Mac の生徒に機能的同等性を提供する、その他 Linux、デスクトップとブラウザへの分配への追加サポートが計画されています。

インストール

ソフトウェアをインストールするには、生徒用コンピュータに製品ダウンロードロケーションにある student-Ubuntu.run ファイルを Linux フォルダからコピーします。

1. ファイルを右クリックし、許可タブを選択し、ファイルが実行可能に設定されていることを確認します。
2. ファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。
3. *動作*を選択してインストールを開始します。
4. 管理者パスワードを入力し、*OK* を選択して続行します。
5. Insight ウィザードが起動されます。*次*へをクリックして続行します。
6. *承諾する ...* を選択し、*次*へで続行します。
7. *終了*をクリックしてインストールを終了します。

代わりに、コマンドを使って「ターミナル」ウィンドウからインストールを動作することもできます。

/bin/bash student-Ubuntu.run

アップグレードとアンインストール

生徒をアップグレードまたはアンインストールするには、同じインストールファイルをダブルクリックして再度動作させます。管理者パスワード入力後、以下を行いたいか質問される画面が表示されます：

- アンインストールして終了
- 現在の生徒をアンインストールしてアップグレード
- 現在の生徒上に上書きして再インストール (推奨)

望ましい選択を行うと、後はウィザードがプロセスを完了します。

機能

このバージョンの生徒インストールでは、Windows または Mac 教師は以下ができます：

- 教師を表示するを動作 (全画面)
- 生徒の画面を生徒に表示
- 生徒の画面を表示

- 生徒用コンピュータをリモートコントロール
- 生徒の画面をブランクにする / ブランク解除する
- 生徒に投票するように頼む
- メッセージを送信するか質問する
- ウェブアクセス制限
- アプリケーション使用制限
- インタンーネット履歴表示
- チャネル変更
- Linux 生徒をリモートで更新

このバージョンのソフトウェアを搭載している生徒は、「質問する」や「投票」依頼に回答することができます。

注意：生徒チャネルは、/opt/Insight/etc/insight.conf ファイルを修正すると、インストール時に特定することができます。入力 “ チャネル =1” を望むように変更してください。教師はまた、生徒を発見後にチャネル変更することもできます。このリリースでは生徒はチャネルを変更する能力を持っていません。

追加の情報で、生徒デーモンが適切に動作しているか確認するか、開始か停止を行っているかを確認します。

生徒を管理者でなくすには：

「sudo 生徒停止」

生徒を管理者でなくすには：

「sudo 生徒開始」

生徒が現在動作中か見るには：

「生徒ステータス」

インストールを有効化し、いずれかの生徒プロセスが動作していない場合には報告するダイナミックなスクリプトがインストール内に含まれています。使用するには、

“/opt/student/scripts/student_diagnostics.sh” を動作

Insight を Vernier LabQuest デバイスにインストール

Faronics Insight 内で新しく、Vernier Software and Technology 社 LabQuest サイエンスデバイスをサポートします。

インストール

1. Faronics Vernier LabQuest の学生をインストールするには、まず .lqa ファイルを Insight インストールダウンロードから (\Vernier LabQuest\insight-student-labquest_arm.lqa) SD カードか USB サムドライブのいずれかのルートにコピーします。ドライブのルートに他の .lqa ファイルがコピーされないように注意してください。
2. インストールしたい動作中の LabQuest デバイスに SD カードを挿入するか、USB ドライブをプラグインします。LabQuest デバイスは自動的にファイルシステムのルートにある .lqa ファイルを検知し、Faronics 生徒インストーラを起動します。
3. 画面の指示に従って、生徒をインストールします。
4. インストール成功後、X サーバ（グラフィック表示）を更新します。画面が点滅し、リロードされるのが見えます。LabQuest アプリケーションは再開し、ツールバーに Faronics アイコンが表示されます。生徒デーモンはデバイス再起動時に毎回自動的に再開されます。

アップグレードとアンインストール

Faronics 生徒がすでにデバイスにインストールされている場合、アップグレードを希望するか画面で質問されます。アップグレードするには “Yes” を軽く叩き、インストールをアンインストールまたはキャンセルしたい場合には “No” を軽く叩きます。

注意：あなたの Vernier LabQuest デバイスの ＩＰ アドレスを知っておくと便利でしょう。デバイスでこれを見るには、[Home]-> コントロールパネル -> ネットワーク へと進むと、デバイスの IP アドレスを記載します。

また、Vernier へのデフォルトのログインは :

User = root

Password = vernier

機能

LabQuest デバイスは、Windows または Mac 教師にアクセスされているときに、これら機能をサポートします :

- 生徒の画面を表示
- 生徒用コンピュータをリモートコントロール
- 生徒の画面をブランクにする / ブランク解除する
- 生徒に投票するように頼む
- メッセージの送信
- 質問する

リモートで更新 Faronics Insight

Insight 生徒の初期インストールとそれら教師用コンソールにあるコンピュータの発見後、生徒用コンピュータは「リモート更新」機能を使って異なる設定で更新または再設定されることができます。

選択した生徒の Insight を更新

Insight 顧客により発見・報告されるどんな欠陥や問題にも、頻繁なメンテナンスリリースで迅速に対応することを目指します。さらに、製品リリースにはこのような大きな新機能が追加されています。Insight 生徒のバージョンがデバイスにインストールされると、その時点から 1 つの中央「管理者」表示から、または個々の教師用コンソール表示から新バージョンを実行することが可能です。

現在インストールされているバージョンから最新リリースへ更新するために、リストから個々の生徒を選択、または生徒の複数グループを選択することができます。これを遂行するには、特定の生徒用インストールファイルをダウンロードされた場所から教師がインストールされている場所にコピーするだけです。

注意：生徒用コンピュータ上でディープフリーズまたは同様の「ロックダウン」ソフトウェアを使用している場合は、新しいソフトウェアを生徒用コンピュータにインストールできるようにするため、このアップデート手順中はそれらを無効化、または「解凍」しなければなりません。

生徒インストールファイル

ダウンロードの場所から適切な生徒ファイルをコピーし、教師用コンソールがダウンロードされている場所に移します。生徒ファイルを特定するには：

Windows 教師から実行された Windows 生徒用 : student.msi

Mac 教師から実行された Windows 生徒用 : pcupdate.zip

Windows 教師から実行された Mac 生徒用 : mupdate.zip

Mac 教師から実行された Mac 生徒用 : insight_student.dmg

いずれの教師から実施された Ubuntu 生徒にも : student-Ubuntu.run

Windows 生徒上の Faronics をアップデート

1. Faronics の教師用コンピュータへの最新バージョンのインストールから開始します (「Faronics 教師更新」または「Faronics Insight を Windows にインストール」の項を参照してください。)
2. Windows 教師から更新する場合には、ダウンロードロケーション中の *student.msi* ファイルを Windows フォルダから教師用コンピュータ上の Faronics インストールフォルダにコピーします (デフォルトのフォルダは Windows 上の C:\Program Files\Faronics です。)

Mac 教師から更新する場合には、ダウンロードロケーション中の *pcupdate.zip* ファイルを Mac ディレクトリから教師用コンピュータ上の Insight インストールフォルダにコピーします (デフォルトのフォルダは Mac 上の Applications\Faronics です。)

3. Faronics コンソール内で、アップデートしたいコンピュータを選択します。
4. *管理者*をクリックし、次に、*選択した生徒の Faronics をアップデート*メニューオプションをクリックします。
5. 選択された生徒の証明書を提供してください。同一の管理者証明書では、生徒の全グループがアクセス可能とならなければなりません。

この手順は、選択した各生徒あたり数秒かかります。終了したら、*表示*、続いて*更新（F5）*メニューアイテムを押して、生徒用コンピュータ上に新しくインストールしたバージョンを確認する必要がある場合もあります。

選択した生徒で*をアップデート Faronics メニュー*を使って生徒を*展開すると*、生徒に使われた設定は、教師のインストール中に設定した*詳細オプション*と同様のものとなります。

注意：この方法は、生徒用コンピュータで v6.5 以降の生徒が動作している場合のみ有効です。
この方法は、v6.2 の生徒を v7.6 の生徒にアップグレードするためには使用できません。v6 から v7.6 へのアップグレードには、ローカルデバイス上でのソフトウェアの再インストールが必要です。

Mac 上の Faronics をアップデート

1. まず、Faronics の最新バージョンを教師用コンピュータに再インストールします（上述の「Faronics のアップデート」の項を参照）。
2. 次に、*mupdate.zip* を Mac ディレクトリから教師用コンピュータ上の Faronics インストール フォルダにコピーします（デフォルトフォルダは、Windows では C:\Program Files\Faronics 、Mac では Applications\Faronics です）。
3. Faronics コンソール内で、アップデートしたいコンピュータを選択します。
4. *管理者*をクリックし、次に、*選択した生徒の Faronics をアップデート*メニューオプションをクリックします。
5. 選択された生徒の証明書を提供してください。同一の管理者証明書では、生徒の全グループがアクセス可能とならなければなりません。

この手順は、選択した各生徒あたり数秒かかります。終了したら、*表示*、続いて*更新*メニューアイテムを押して、生徒用コンピュータ上に新しくインストールしたバージョンを確認する必要があることもあります。

Mac 生徒はこのプロセス後にログアウトされ、完了後に再度ログインされなければなりません。

選択した生徒で Faronics をアップデートメニューを使って生徒を展開すると、生徒に使われた設定は、教師のインストール中に設定した*詳細オプション*と同様のものとなります。

Ubuntu 上の Faronics をアップデート

1. まず、Faronics の最新バージョンを教師用コンピュータに再インストールします（上述の「Faronics の更新」の項を参照）。
2. 次に、*student-Ubuntu.run* を Linux ディレクトリから教師用コンピュータ上の Faronics インストール フォルダにコピーします（デフォルトフォルダは、Windows では C:\Program Files\Faronics 、Mac では Applications\Faronics です）。
3. Faronics コンソール内で、アップデートしたいコンピュータを選択します。
4. *管理者*をクリックし、次に、*選択した生徒の Faronics をアップデート*メニューオプションをクリックします。
5. 選択された生徒の証明書を提供してください。同一の管理者証明書では、生徒の全グループがアクセス可能とならなければなりません。

この手順は、選択した各生徒あたり数秒かかります。終了したら、*表示*、続いて*更新*メニューアイテムを押して、生徒用コンピュータ上に新しくインストールしたバージョンを確認する必要があることもあります。

選択した生徒で Faronics をアップデートメニューを使って生徒を展開すると、生徒に使われた設定は、教師のインストール中に設定した*詳細オプション*と同様のものとなります。

生徒用コンピュータ上でディープフリーズまたは同様の「ロックダウン」ソフトウェアを使用している場合は、新しいソフトウェアを生徒用コンピュータにインストールできるようにするため、このアップデート手順中はそれらを無効化しなければなりません。

注意：マシンにアクセスするアップデートが必要な各ファイルと証明書がグループ内の各デバイスと同じ場合、インストールされる生徒の混合プラットフォームをアップデートするよう選択する場合があります。優れた IT プラクティスとしては、マシンのサブセットをいちどずつ行うことを推奨します。

また、これは生徒用コンピュータを 30 日デモバージョンから最新の販売バージョンに更新するのにも最適な方法です。

Faronics Insight をキオスクモードで実行

Faronics Insight では、Windows 上で 教師用コンソールをキオスクモードで実行できます。このモードにより Faronics がコンソールが設定されますので、最小化または終了することはできません。

Faronics コンソールをキオスクモードで実行するためには、次の指示に従います。

1. 教師用コンピュータ上 Faronics *teacher.msi* ファイル
2. *regedit.exe.* を開く
3. *HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Run.* をブラウズする
4. *KiOsK* を Faronics Teacher Key C:\Program Files\Faronics \Teacher.exe KiOsK に追加する
5. *OK* をクリック

次回システムを再起動すると、Faronics 教師用コンソールはキオスクモードで動作します。

Faronics 構成の優先設定

Faronics の設定は簡単です。7 つのタブが付いたダイアログ 1 つですべての優先設定が制御されています。ほとんどの優先設定は教師用コンピュータ上でのこれらの設定を変更することで制御されています。

構成設定には次のタブが含まれます：

- 教師
- 生徒
- ウェブ制限
- アプリケーション制限
- キーストローク警告
- ドライブ制限
- ネットワーク

教師の優先設定

教師タブでは、次のような優先設定を設定できます：

教師画面の表示

全画面

生徒の画面に教師の画面が表示されます。「教師を表示」中、生徒はマウスやキーボードを制御することができません。

ウィンドウ表示

各生徒の画面のウィンドウに教師のブロードキャスト画面が表示されます。この場合、生徒は教師に「従う」ことができ、教師のブロードキャストセッションの間自分達のコンピュータを使うことができます。

色減少

スクリーンブロードキャスト、リモートコントロールと「生徒を表示」を行っている間、教師が色の数を制限し、教師が使用した背景イメージを抑えることができます。この両方を行うことで性能が向上し、ネットワークバンド幅要件を抑えることができます。

デュアルモニターの表示

教師がデュアルモニターを表示でき、デュアルモニターを使用中に生徒のサムネイルに戻ることができます。

画面メッセージを無効にする

このオプションを使うと、教師は生徒の画面がブランクの時に生徒の画面上に表示するテキストを指定できるようになります。テキストメッセージをドロップダウンリストに入力し、*適用*を選択します。最新のメッセージ 10 通分が保存されていますので、画面がブランクになっていても迅速に選択できます。これらメッセージは、コンソールツールバー上のブランク画面ボタンから閲覧することができます。そのボタンから、メッセージを閲覧、選択または削除できます。

システムトレイ通知

このオプションは、コンソールが最小化されている教師がシステムトレイ内の Faronics アイコンを表示したり隠したりすることを可能にします。

サウンド

チェックが入っていれば、教師画面が生徒に表示されている時に Faronics サウンド効果が再生されます。

生徒の優先設定

生徒タブでは次のような優先設定を設定できます：

リモートコントロール

生徒のキーボードとマウスを使用不可にする

このオプションで、教師は生徒用コンピュータをリモートコントロールしている間、生徒のインプットを「ロックアウト」できます。

生徒のサムネイル

実行中のアプリケーションのアイコンをサムネイルに表示

サムネイルビュー内で、このオプションにより、左手上部隅に生徒が現在実行しているアプリケーションのアイコンが表示されます。

最新訪問したウェブサイトのアイコンをサムネイルに表示

サムネイルビュー内で、このオプションにより、左手上部隅に生徒が現在最近訪問したウェブサイトを表すアイコンが表示されます。

利用可能時に（ディレクトリから）生徒名を表示する

もしあれば、サムネイル下に生徒ディレクトリ名が表示されます。

注意：生徒名とコンピュータ名の両方が、大きなサムネイル媒体上に自動的に表示されます。小さいサムネイルで表示する単一オプションを選択することもできます。

タスクマネージャ / アクティビティ監視

生徒用コンピュータ上のタスクマネージャまたはアクティビティ監視を無効にする

生徒の Faronics フォルダ

生徒フォルダ

このオプションを使うと、生徒用コンピュータで Faronics フォルダのパスを指定することができます。このパスは、ローカルドライブでもネットワークドライブでもかまいません。

ウェブアクセス時に生徒に通知を表示

「ウェブを制限」が有効な場合にこのオプションを使うと、ウェブサイトにアクセスしようとした生徒に通知を表示する機能のオン・オフを切り替えられます。

ウェブ制限

ウェブ制限タブでは、ウェブを制限するため次のような優先設定を設定できます。

全てをブロックする

このオプションを使うと、すべてのウェブブラウジング、インスタントメッセージおよび電子メールプログラムをブロックします。

許可されているウェブサイト

このオプションは、ウェブ制限がオンになっているときにあなたがウェブサイトのリストにタイプできるようにするものです。ウェブサイトのリストは http:// or the www. prefix を含まなくてもかまいません。いちどにひとつのサイトを入力し、次に改行 (enter) キーを押します。ウェブサイトのリストは、読み込みと保存ボタンを使って保存・読み込みを実行します。ファイルは、.lsu のファイルとして保存されます。サンプルリストはこのようになります：

www.cnn.com

nationalgeographic.com

*.microsoft.com

次のウェブサイトをブロック

このオプションを使って、「ウェブを制限」をオンにした時にブロックするウェブサイトのリストをタイプ入力することができます。ウェブサイトのリストは http:// or the www. prefix を含まなくてもかまいません。いちどにひとつのサイトを入力し、次に改行 (enter) キーを押します。ウェブサイトのリストは、読み込みと保存ボタンを使って保存・読み込みを実行します。ファイルは、お望みの場所で .lsu ファイルとして保存されます。

* 注意：許可済みウェブサイトとブロック済みウェブサイトの両方において、ウェブサイトを指定するために “*” や “?” をワイルドカードとして使用することができます。Windows 上のウェブ制限は、32 ビットインターネットエクスプローラー (6.x-9)、Firefox (3.x or 4.x) と Chrome で起こります。Mac 上のウェブ制限は、Safari と Firefox(3.x or 4.x) で起こります。ウェブ制限がオンになっている場合、64 ビットインターネットエクスプローラーが単純に Windows の起動をブロックされ、また Chrome が Mac 上でブロックされます。

プライベートおよび **IP** アドレスによるブラウジングを制限

生徒が 32 ビットインターネットエクスプローラーのインプライベートブラウジング機能を使用し、ドット付き 10 進法 (IP アドレス) インターネットアドレスを使用してウェブサイトをブラウジングするのを禁止します。

アプリケーション制限

アプリケーション制限タブを使うと、次のような優先設定を設定できます：

許可されているアプリケーション

アプリケーションの制限をオンにした時に、許可するアプリケーションのリストを指定する際に、このオプションを使用します。存在する場合、入力には適切なファイル拡張が含まれなければなりません。ウェブ制限同様、アプリケーションをいちどにひとつずつ入力し、各入力後、改行 (enter) キーを押してください。アプリケーションのリストは読み込みと保存ボタンを使って保存・読み込みできます。ファイルは .lsa ファイルとして保存されます。

アプリケーションは、直接タイプして、追加ボタンをクリックして、教師用コンピュータ上で有効なアプリケーションを選択して追加することもできますし、また、監視メニュー内の「生徒の実行中のプログラムを見る」をクリックして生徒用コンピュータからアプリケーションを加えることもできます。

アプリケーション表示名は、通常、Windows 内では .exe file ですが、アプリケーション制限ソフトウェアは実際にはファイルの内部名を使用します。デフォルト表示名と内部名は通常同じですが、非常に違っている場合もありますので、そのアプリケーションを制限する問題が発生するときには、実行可能なプロパティをチェックし、内部名を調べてください。Mac では、Finder 内に表示されているファイルの表示名を入力します。

アプリケーションをブロック

アプリケーションの制限をオンにした時に、ブロックするアプリケーションのリストを指定する際に、このオプションを使用します。

アプリケーションのリストは読み込みと保存ボタンを使って保存・読み込みできます。ファイルは .lsa ファイルとして保存されます。

アプリケーションは直接入力でき、追加ボタンをクリックして教師用コンピュータ上でアクティブアプリケーションを選択して追加するか、モニターメニューで「生徒の実行中プログラムを見る」をクリックして生徒のコンピュータからアプリケーションを追加して追加できます。

注意：Windows と Mac の両方で、作業システムにとって基本的なものであるため、制限のできないアプリケーションが存在します。たとえば、Windows のファイルエクスプローラーや Mac の Finder がこれに当たります。

キーストローク警告

キーストローク警告タブにより、禁止用語のリストを指定できます。生徒が禁止用語を入力すると、その生徒のサムネイルに黄色の警告アイコンが出て教師は通知を受けます。サムネイル上にマウスを移動させると、その生徒が入力した言葉が表示されます。

ドライブ制限

ドライブ制限タブを使うと、ドライブ制限ボタンをクリックした際にブロックされるドライブのタイプを設定できます。Faronics Insight では、ほとんどの生徒の USB ドライブと CD/DVD ドライブをブロックできます。しかし、これはシンクライアント、Linux または LabQuest の生徒にはサポートされていません。

ネットワーク

ネットワークタブでは、次のような優先設定を設定できます：

データ転送

IP ブロードキャスト

教師が全生徒のコンピュータに連絡する必要がある場合、このデフォルトオプションはブロードキャストパケットを使用します。このオプションは、生徒が教師と同じサブネットにあることが前提です。

ブロードキャストパケットはサブネットまたはその他セグメントをクロスしないことに注意してください。　サブネットをクロスする必要がある場合、IP マルチキャストか IP ディレクテッドブロードキャストのいずれかをお薦めします。

IP マルチキャスト

TCP/IP マルチキャスト経由で Faronics データを生徒に転送します。　マルチキャストを利用すれば、ネットワーキングのハードウェアは Faronics トラフィックを Faronics コンピュータに対してローカルに保持することができます。ネットワークハードウェアがこのオプションをサポートする場合、使用を強くお薦めします。

IP ディレクテッドブロードキャスト

教師が数人または全員の生徒とは異なる IP サブネット上にいる場合、マルチキャストは利用できないので、このオプションが使用できます。適切なアドレスを計算するためには、ダウンロードした Faronics のユーティリティフォルダ内にある DirBCastAddr.exe ユーティリティを使用してください。

注意：ネットワーク上でマルチキャストおよび / またはディレクテッドブロードキャストを作動させるには、ルーター / スイッチの追加設定が必要な場合もあります。お使いのスイッチ / ルーターについての詳細はハードウェアの取扱説明書をご覧ください。これらオプションに関するさらなる詳細は、「VLAN 経由で Faronics Insight をインストール」の項目を参照してください。

複数のネットワークアダプタ

ネットワークインターフェイスカードを指定

コンピュータの中には実際に 1 つ以上のネットワークインターフェイスカード (NIC) および / または複数の IP アドレス（すなわちルーター）をもつものもあります。これらはバーチャルまたはワイヤレスネットワークのアダプタであることもしばしばあります。

Faronics は「最初の」NIC を常に使用しますが、それが望ましい NIC またはネットワークであるとは限りません。このチェックボックスを使えば、どの NIC を使用するかを指定できます。

教師用コンピュータに複数のリアルまたはバーチャルネットワークアダプタがある場合には、ドロップダウンボックスから Faronics が使用するアダプタを指定してください。

教師チャネル

チャネル番号

自分に割り当てられているチャネル番号を教師が変更できないよう、この機能は通常使用不可にされています。教師にチャネルの変更を許可するか、複数チャネルを閲覧することを許可したい場合には、望まれる各教師用コンピュータで、インストール後にこの機能が有効化されなければなりません。製品ダウンロード内のユーティリティディレクトリで利用できる、*EnableChannelSelect.exe* と呼ばれるユーティリティがあります。ユーティリティを教師用コンピュータにコピーしダウンクリックすると、この機能が有効化されます。

EnableChannelSelect.exe のコマンドラインパラメータは次の通りです：

- *EnableChannelSelect.exe* TRUE
- *EnableChannelSelect.exe* FALSE

* 注意：また、*EnableChannelSelect.exe* を使えば、教師または管理者は生徒のチャネルをリモートで変更できます。この機能へのアクセスは、生徒を 1 名、または複数選択し、*管理者*をクリックし、*生徒チャネルを変更します*をクリックします ...

管理者チャネル

チャネル “0” (ゼロ) は管理者のチャネルで、全割り当てチャネルを監視し、全生徒用コンピュータがインストールされているか見る能力を持ちます。

複数のチャネルを使用する

この機能を使えば、教師は 16000 のチャネルを任意にグループ化できます。各チャネルはカンマで区切られている必要があります。例：1,3,4 と入力すると、教師用コンソールを設定し、チャネル 1,3,4 にいる全生徒を同時に監視できます。

チャネルの変更

生徒用コンピュータのチャネルを変更する必要がある場合、このタスクを完了するにはいくつか方法があります。

- 製品をアンインストールするかインストールし直して、インストールダイアログ内の新しいチャネルを選択します。
- Windows では、ユーティリティ ディレクトリにある setchannel.exe を実行します。
- Faronics コンソールからチャネルを変更します。*EnableChannelSelect.exe* を実行していれば、コンソールから生徒チャネルを変更することができます。
    1. チャネルを変更したい生徒を選択します。
    2. *管理者*をクリックして、*生徒チャネルを変更*をクリック ...
    3. 新しいチャネルを入力する
    4. OK をクリック
- アクティブディレクトリを使用し、student.adm でチャネルを設定します

注意：Faronics は Ghost のようなイメージツールとうまく協調できます。イメージツールを使用する際には、特定のクラスルームで全てのコンピュータに対するチャネルの変更の仕方に主に注意すべきでしょう。大組織の場合では、アクティブディレクトリか、ログインスクリプトを介した *setchannel.exe* を使用する方法を推奨します。小さな組織の場合は、単純に、教師用コンソールを使ってチャネルを変更する方が簡単でしょう。

Faronics 教師のアップデート

Faronics を新製品バージョンへ更新するには、教師のインストールファイルを再び実行するだけです。新規バージョンをインストールする前に旧バージョンをアンインストールすることなしに、自動的に Faronics ファイルを新規バージョンに更新します。ただし、古いバージョンが v6.0 以前の場合、必須ではありませんがアンインストールした方がいいかもしれません。

Faronics 生徒のアップデート

Faronics ソフトウェアへの機能拡張は必要に応じてリリースされます。生徒用コンピュータを最新バージョンの Faronics にアップデートしたい場合、自動更新できる方法があります。ソフトウェアをすべての生徒用コンピュータに手動で再インストールする必要はもうありません。さらなる詳細については、本説明書で前述した「Faronics Insight リモート更新」の項を参照してください。

Faronics セキュリティ監視

Faronics のような強力なツールでは、常に悪用される危険があります。生徒が不正コピーを探したり、教師ソフトウェアを読み込んでみたりしたい誘惑にかられ、クラスの進行を妨害してしまうこともあり得ます。

潜在的な悪用に対処するためには 3 つの方法があります。

1. 適切な行動についての学校の方針を設定し、その方針を監視、実行します。
2. Faronics Insight をアクティブディレクトリ安全モードにインストールします。この場合、教師は生徒用コンピュータを管理するために「Faronics 教師」というドメイングループに属している必要があります。（推奨されるメソッド）
3. Faronics Insight をパスワード安全モードでインストールします。これは、アクセスが許可される前に教師用と生徒用コンピュータの両方でパスワードが要求されるものです。

セキュリティ監視

セキュリティ監視は、Faronics ダウンロードイメージ上のユーティリティフォルダでも利用できます。このアプリケーションはどの生徒 PC でも実行できるもので、Faronics プログラムのインストール、アンインストールを含む Faronics のアクティビティについてのログを記録します。

このユーティリティがあれば、大概、クラスルームの「適切な使用方針」を悪用した生徒を学校が素早く見つけることができます。このユーティリティについての詳しい説明は、同じフォルダ内の *Faronics Insight Utilities.pdf* ファイルにあります。

*表示*それから*ステータスウィンドウ*を続けてクリックしても、教師はセキュリティ監視データにアクセスできます。アクションを実行次第、セキュリティメッセージが表示されます。

以前のバージョンでは、Faronics のデモバージョンをダウンロードしてインストールした生徒たちが最大のセキュリティ問題を引き起こしました。*Faronics v6.1* 以降、デモバージョンはリリース済のバージョンとの連携はありません。

NAL 環境内 Faronics

NAL（ネットワークアプリケーションランチャー）は、Novell ZEN Works パッケージの一部です。NAL は生徒のデスクトップを制御するために使用可能で、管理者承認済みアプリケーションのみに生徒がアクセスできるようになっています。最も制限の高いモード（そしておそらく学校側にとって最も便利なモード）では、指定のアプリケーションのみが実行できます。

Faronics Insight を NAL 環境でインストールする場合は、教師および生徒プログラムの両方とも付属の .msi ファイルを使って実行します。

教師用コンピュータ用の注意点：

教師用コンピュータも NAL によってロックダウンされている場合、教師にはシステムトレイがなく、Faronics 教師アイコンをクリックして Faronics を制御することができません。この場合、ホットキーシーケンス「 <Ctrl><Alt><L>」を使用して、Faronics 教師のメニューを出すことができます。

ウェイクオン LAN 対応

リモートで生徒用コンピュータの「電源をオン」にするために、ウェイクオン LAN（WOL）テクノロジーが利用されることができます。この場合、生徒用コンピュータでは WOL が有効になるよう設定されている必要があります。この仕様のために必要な手順は、各コンピュータモデルによって異なります。通常、この手順をサポートするにはコンピュータに特別なハードウェアが必要で、有効にしなければならない BIOS スイッチがあります。実際に必要な手順を決定するにはコンピュータサプライヤーに相談するのが一番いいでしょう。

ダウンロードした Faronics Insight のユーティリティフォルダ内には、WOL の準拠性を確認するためのユーティリティである *WakeUp.exe* が入っています。

このユーティリティは、指定したターゲットコンピュータに WOL の「ウェイクアップ」シグナルを送ります。このユーティリティを使用するためには、2 台のコンピュータが必要です：ターゲットコンピュータとコンソールコンピュータです。コンピュータは両方とも同じ IP サブネットに属している必要があります。また、ターゲットコンピュータの物理 MAC アドレスを決定する必要があります

コンピュータが Win9x コンピュータの場合、Window の *winipcfg.exe* ユーティリティを利用することもできます。そうでない場合、IPCONFIG /ALL コマンドをコンピュータプロンプトから動作させることができます。

ターゲットコンピュータの物理 MAC アドレスを入手したら、コンピュータをシャットダウンし、別のコンピュータ（つまりコンソール）上のコマンドプロンプトから、*WakeUp.exe* ユーティリティを実行します。　これにより、ターゲットコンピュータに WOL ウェイクアップパケットが送信されます。

ターゲットコンピュータ上で WOL が適正に設定されていれば、電源が入ります。電源が入らない場合、どんな追加手順をとるべきか確認するため、ハードウェアメーカーに確認しなければなりません。生徒用コンピュータ上で WOL が適切に設定されていない場合、Faronics 教師用コンピュータは、そのコンピュータ上で WOL ウェイクアップを実行できません。

注意：また、Apple 版のウェイクオン LAN では、Mac はスリープから起きますが、オフになっている Mac の電源をオンにはならないのでご注意ください。

802.11 ワイヤレスサポート

Faronics Insight には、ワイヤレスネットワーク上でコミュニケーション中であると教師用コンピュータが感知した際に自動的に選択される新しいワイヤレスプロトコルが含まれます。このプロトコルはワイヤレスネットワーク上の Faronics の性能を著しく向上させます。

特殊なハードウェア要件

1. NIC ベンダーから入手可能な最新の NIC （ネットワークインターフェイスコネクター）ドライブを全てのコンピュータが使用しているか確認して下さい。「ワイヤレスの世界」は、10 年ほど前の LAN 環境と似ています。ワイヤレスネットワークドライバは、頻繁にアップデートされ、向上しています。
2. 業務用アクセスポイントを推奨します。アクセスポイントには、2 つの種類があります。家庭用と業務用です。最もわかりやすい違いは値段です。

- 「家庭用」アクセスポイントは一般的に 100 ドル（約 1 万円）程度で利用できます（例：LinkSys、DLink、Belkin など）。数台のコンピュータがインターネットリンクやプリンターを共有している家庭環境であれば、問題なく作動します。
- 「業務用」アクセスポイントは、同時に 50 台以上のクライアントをサポートすることが可能です。このタイプは一般に 300 ドル（約 3 万円）前後となります。生徒用コンピュータが 5 台以下でない限り、業務用のアクセスポイントが望ましいでしょう。（当社は Meru を推奨しますが、同様の製品は HP、Dell、Cisco （LinkSys 部門以外）、IBM なども生産しています。）このタイプは、Faronics だけではなく、一般的に生徒用コンピュータにも利点があります。

3. 生徒用コンピュータの NIC 上の節電機能をオフにして下さい。弊社テストの結果、これにより Faronics 性能もコンピュータの電池寿命も改善したことが分かっています。

インストール

全てのワイヤレスコンピュータは同じアクセスポイントに関連していると推測されます。これ以外では、インストールに関する特別な問題はありません。インストールガイドで説明の通り、教師用および生徒用コンピュータでインストールプログラムを実行してください。

性能

生徒用コンピュータにブロードキャストする教師画面のスピードは、ワイヤレスは、有線のネットワークでのパフォーマンスと比較した場合良好ではありません。これは変えられません。

有線のネットワークはブロードキャストおよびマルチキャストデータを 100Mbit/ 秒で送信します。802.11 ワイヤレスネットワークは、通常ブロードキャストおよびマルチキャストデータを毎秒 1M ビットにて送信します（有線スピードのわずか 1%ということです）。

ワイヤレスネットワークの帯域幅が大きく減少するだけでなく、802.11 アクセスポイントのアーキテクチャでは、しばしば、ブロードキャストおよびマルチキャストデータに対する著しい伝播遅延も発生します。これは 802.11 世界の節電アーキテクチャに原因があります。

しかし、Faronics 教師表示機能はそれでも妥当な範囲で良好に動作します。複雑な教師画面でも、生徒画面に 3 秒以内に表示されるはずです。教師画面の変更は、シンプルであればほぼ同時に表示されるはずです。

ワイヤレスパフォーマンスの調整

状況に応じてパフォーマンスを向上させたいとお考えの場合は、お使いのアクセスポイント (AP) の構成を設定し直してみることもできます。これはベンダーによって違いがありますので、以下には一般的なガイドラインのみを示します。あなたの特定のアクセスポイントの変更の仕方を知るには、アクセスポイントの説明書を参照して下さい。

1. ビーコンインターバルをできるだけ低く落とします。一般的には、これは 50ms まで落とせます。
2. DTIM をゼロに設定します。これによりブロードキャストおよびマルチキャストパケットが各ビーコンパケット後に送信されるようになります。
3. ブロードキャストまたはマルチキャストのスピードを上げます。すべての AP で設定可能なわけではありません。

その他の Faronics ユーティリティ

SecurityMonitor.exe

生徒が Faronics の不正コピーを持っているのではないかと思われる場合、新しい Faronics セキュリティ監視でその生徒を迅速に識別することができます。Faronics セキュリティ監視は全トラフィックを記録し、そのデータをログファイル外で保存するオプションがあります。オプションボタンをクリックし、ログインタブを選択してファイル名をタイプしてください。

オプションボタンをチェックすると、生徒ごと、メッセージごとにフィルタすることもできるようになります。この新しいフィルタ能力は、不適切な使用を見つけるために、全メッセージに目を通すことができるようにするものです。不正に使用されている教師用コンソールが見つかれば。そのコンピュータを選択してリアルタイムで警告を表示することができます。この時点では、そのコンピュータからの全トラフィックに警告の記号が付けられます。

EnableChannelSelect.exe

デフォルトでは、教師優先設定ダイアログのネットワークの教師は教師チャネルエリアの設定をかえることはできません。この情報はインストール中に設定され、一般的には設定される必要はありません。しかし、教師がこれら設定を変更する必要がないとき、教師用コンピュータでユーティリティを作動させることにより、教師は自分のチャネル、グループおよびリモート生徒チャネルを更新することができます。ユーティリティは、ローカル管理者権限で作動させなければなりません。これらの権限を無効にしなければならないとき、このユーティリティを「偽」コマンドラインオプションで作動させることができます。

DisableDataTransmission.exe

デフォルトでは、教師は教師優先設定ダイアログのネットワークタブのデータ伝送エリア内の設定をかえることができます。教師にデータ伝送の設定を変更させたくない場合には、このユーティリティを教師用コンピュータ上に動作させ、データ伝送の欄がグレーで表示され、無効化されるようにすることができます。

DisableDataTransmission.exe FALSE を作動させることにより、デフォルトに戻すことができます。

DirBCastAddr.exe

教師優先権を設定時に、ネットワークタブは最大 3 個の異なる「IP ディレクテッドブロードキャスト」アドレスを許可します。IP ディレクテッドブロードキャストは特別なアドレスで、(適切に形成されている場合) 目的地のサブネットに到着するまであなたのネットワークを単一のディレクテッド UDP パケットに変換します。目的地のサブネットを検索時に、ルーターはパケットを標準的な UDP ブロードキャストパケットに転換します。

IP ディレクテッドブロードキャストが作動するためには、あなたのルーターは IP ディレクテッドブロードキャストパケットを転送するよう設定されていなければならず (時として、ルーターはこれらを「UDP ディレクテッドブロードキャスト」と称します)、パケットのアドレスが適切に形成されていなければなりません。このユーティリティは、後ほど役に立ちます。その生徒のサブネットマスクとともに、ターゲットサブネット上のいずれかの生徒用コンピュータの IP アドレスを入力します。両方のアドレスを入力したら、「計算」ボタンをクリックします。その結果出たアドレスを、教師優先設定ダイアログ .LSeriesLocation.exe のネットワークタブのデータ伝送エリア内のサブネットエントリー内にコピーします。

SetChannel.exe

教師チャネルは一般的にインストール中に設定されます。Faronics ソフトウェアは、生徒または教師用コンピュータ上のローカル教師チャネルを更新するために、常に再インストールすることができます。このユーティリティはまた、ローカル教師チャネルの更新のためにも使われます。ローカルの管理者の権限で動作されなければなりません。教師用コンピュータでは、チャネルをグループにまとめるのにも使われます。コンソールアプリケーションです。全パラメータは、コマンドラインを通過します。新規教師チャネルは、0 から 16000 までの番号でなければなりません (チャネル 0 は生徒用コンピュータでは実際には使われないことにご注意ください。) マシンが教師用コンピュータである場合、括弧 { } 内でコンマ (,) でチャネルを区切ってチャネルグループを特定することができます。(例 {1,4,63})

SetDataTrans.exe

これは、IP ブロードキャスト、IP マルチキャストと IP ディレクテッドブロードキャスト間の教師用コンピュータのベースデータ伝送タイプをかえるものです。コンソールアプリケーションとして、パラメータはコマンドラインを通過します。「ブロードキャスト」、「マルチキャスト」または「ディレクテッド :w.x.y.z,w1.x1.y1.z1,...」です。IP ディレクテッドブロードキャスト向けには、最大 4 のドット付き 10 進法 IP ディレクテッドブロードキャストアドレスを指定できます。DirBCastAddr.exe ユーティリティを使って、これらアドレスを適切に形成することができます。

StudentDiagnostics.exe

これは、Faronics テクニカルサポートの人員によって使われる、診断ユーティリティです。一般的に、ファイヤーウォールとルーターに関するネットワーク接続問題を検知するために使われます。

StudPopUp.exe

生徒または教師用コンピュータがシステムトレイを持たない場合 (システムトレイをグループポリシーから、または Novell の NetWare ネットワークアプリケーションランチャーから削除することは可能)、ローカル Insight メニューにアクセスすること方法がまったくなくなります。このアプリケーションを動作させると、ローカル Faronics メニューが表示されます。

SwitchToTeacher.exe

教師用コンソールに生徒に機能をスイッチさせるオプションがあるとき、生徒用マシンに教師用コンピュータの機能をスイッチさせる簡単な方法はありません。このユーティリティはそのオプションを提供するものです。これを行うには、まず教師ソフトウェアの生徒用コンピュータ上へのインストールを終了させ、次に生徒用ソフトウェアへ上書きインストールしなければなりません。このユーティリティを動作させると、ローカルの生徒アプリケーションが停止し、教師アプリケーションが起動します。

WakeUp.exe

Faronics 教師用コンソールは、「Lan パケット上にウェイクアップ」を発行し、特定の生徒用コンピュータをウェイクアップさせることができます。これを行うには、生徒用コンピュータは BIOS を全部リモートウェイクアップに設定されていなければなりません。残念ながら、全コンピュータ製造業者は、BIOS 設定を違うやり方でやるように設定しているようです。このユーティリティは、特定のマシンが適切に設定されているかを確認するために使われます。ターゲットコンピュータの MAC アドレスをコマンドラインオプションとして使います。たとえば、ターゲット生徒用コンピュータの MAC アドレスが 00-22-64-AD-9C-AC であった場合、あなたは WakeUp.exe を使って次のコマンドラインのそのマシンを「ウェイクアップ」させることができます : WakeUp.exe 00-22-64-AD-9C-AC [Enter].

Faronics Insight の使用

この章は、クラスルームでの Faronics Insight クラスルーム管理ソフトウェアの使い方を説明するものです。

トピック

始めに
Faronics の動作方法
教師用コンピュータを使用する
生徒用コンピュータについて
ユーザーインターフェースのヒント
Faronics Insight 新機能概要
Faronics Insight 機能の概要
別のコンピュータ上でテストビルダーを使用
Faronics セキュリティ監視
Faronics 構成の優先設定

始めに

Faronics Insight 製品ダウンロードには Faronics をインストールするのに必要なセットアップファイルが含まれます。もしも Faronics がまだインストールされていない場合は、製品インストールについてのインストラクションとして Faronics Insight インストールガイド（を参照してください。Faronics をインストールしたら、このガイドに従って製品を使用してください。

ほとんどの場合、コンピュータ上で作動中の Insight ソフトウェアは、Teacher または Student「生徒」または「教師」(大文字で) と表記され、ユーザー、実際の teachers と students 「教師」と「生徒」(小文字) や一般のデバイスとは異なっています。

Faronics の動作方法

Faronics では、コンピュータベースの教室の中で、教師がすべての生徒用コンピュータを閲覧できるようになっています。

教師「チャネル」を使い、クラスルームのコンピュータ全てが見えるようになっています；テレビチャンネルと似ていて、同じプログラムを異なるテレビで見ることができます。Faronics には選択可能な 16,000 もの教師チャネルがあり、これは一定時間に Faronics を使って 16,000 もの異なるクラスルームを設けることができることを意味しています。

ラボ、クラスまたはワイヤレスラップトップカートに Faronics を設定する上で最も理にかなった方法は、各クラスあるいは教室用にそれぞれ独自の教師チャネルを確保することです。このセットアップにより、同じクラスルームにある全てのコンピュータがお互いにインタラクトでき、教師がクラスルーム全体を管理することができます。

Faronics がマンツーマン型の環境で使用される場合、生徒がノートブックを持っている場合、2 つのオプションがあります。

1. 標準設定は、教師がクラスリストを作成し、自動的に生徒をクラスに入れるものです。
2. 他のオプションは生徒が教師のチャネルに参加するものです。このモードでは、生徒がクラスに参加時や退出時に教師は生徒を監視できます。また、教師は以前に保存したクラスリストに対してクラスにいる現在の生徒リストを比較できます。

大概の学校では、オプション 1 を選んでいますが、その理由は 2 番目のオプションよりも素早くクラスを開始できることにあります。クラスリストを使うことを選択する場合、これの実行方法は 3 つあります。

クラスリスト内で実施

これらクラスリスト方法のそれぞれに対して、まずどのようにチャネルを割り当てるかを決定してください。

1. 全ての生徒のコンピュータを、教師が誰も使用していないデフォルトの「ホーム」チャネルに設定します。たとえば、中学校では、7 年生をチャネル 7 に、8 年生をチャネル 8 に、そして 9 年生をチャネル 9 に割り当てることができます。代わりに、単一のチャネルを学生全体に割り当てることもできます。
2. 各教師を固有のチャネルに設定します。多くの学校では教師のクラスルーム番号を使うとうまく行っているようです。
3. 生徒用コンピュータにデフォルトオプションでチャネルをかえないよう設定します。
4. 以下の 3 つの方法のうちひとつを使ってクラスリストを作成します。これらリストは、生徒ログイン名やそのコンピュータ名に基づいて作成できます。また、Windows 内ではアクティブディレクトリ (AD) 名を使うこともできます。
5. 教師用コンソール内で適切なクラスリストを読み込みます。この作業により、一時的に生徒をホームチャネルから教師がログオンしているチャネルに「引き出し」ます。
6. クラスを終了します。現在のクラスが終了すると、現在のグループにいる全生徒にホームチャネルに戻るように命じます。クラスを活発に解散することを忘れることは問題ではありませんが、別の教師が自分のクラスリストを読み込むと、生徒を自分のチャネルに集めることができます。

クラスリストを手動で作成する

1. *管理者*メニューから、*マンツーマン*を選択し、次に*クラスリストの管理*を選択します。

2. 生徒の選択方法を決定し、適切なラジオボタンを選択します。生徒を見つける方法には以下のようなものがありますので、この中から選択できます：
   - 生徒ログイン名
   - 生徒用コンピュータ名
   - 生徒名 (Windows 環境のアクティブディレクトリから)
3. *生徒をブラウズ*ボタンをクリック。
4. このクラスに適切な生徒に印をつけ、*追加*を選択します。
5. そうしたい場合、このクラス用に前回作成したプロファイルと関連付けるために *ブラウズ*します。
6. 名前を入力してクラスを保存します。クラスリストは .lsc extension で保存されます。

クラスはこれで、オンデマンドで読み込みできるようになりました。これにより、コンソール内現在の生徒リストが保存されているファイル内の生徒と交換されます。

静的ファイルからクラスリストを作成する

1. 以下のいずれかで生徒をリストする .csv ファイルを作成する：
   - 生徒ログイン名
   - 生徒用コンピュータ名
   - 生徒名（アクティブディレクトリから）

このファイルのログイン名の一例：

Student01

Student02

Student03...

管理者メニューからマンツーマンを選択し、次にクラスリストの管理を選択します。

2. *生徒をインポート*を選択します ...
3. 以前に作成した .csv ファイルを選択します。
4. そうしたい場合、このクラス用に前回作成したプロファイルと関連付けるために *ブラウズ*します。
5. 名前を入力してクラスを保存します。クラスリストは .lsc extension で保存されます。

クラスはこれで、オンデマンドで読み込みできるようになりました。これにより、コンソール内現在の生徒リストが保存されているファイル内の生徒と交換されます。同じメニューロケーションから、後ほど*現在のクラスを解除する*ことができます。

生徒情報システム (SIS) からダイナミッククラスリストを作成する

現存する異なる生徒情報システムの数により、Faronics はこれらツールの統合において、より一般的なアプローチを取っています。一般的に、これらシステムはたとえば生徒命のようなデータをエクスポートし、またそのデータエクスポートを継続して行うようにスケジュールするメカニズムを提供します。

ダイナミッククラスリスト実施準備として、SIS ソフトウェアから必要なデータをエクスポートし、て 2 つのファイルを作成する必要があります。最初のファイルは教師ファイル。データ 3 列のみ、コンマで区切ります。お持ちのツールに .csv として保存するエクスポートオプションがあるはずですが、そうでない場合、通常のテキストファイルでも受付可能です。

データは、特定の順番で列ごとに記載されなければなりません : これらアイテムと教師名、クラス ID、クラス名をコンマで分けます。教師名は、そのネットワークログイン名かコンピュータ名のいずれかです。または、Windows 環境ではアクティブディレクトリやその生徒名です。クラス ID 番号は任意の数字識別子で、各クラスに独自のものでなければなりません。

必要な 2 つ目のファイルは生徒ファイルです。生徒ファイルには、データ 2 列のみ、コンマで区切ります。ClassID と生徒名です。生徒名は、そのネットワークログイン名かコンピュータ名のいずれかです。または、Windows 環境ではアクティブディレクトリやその生徒名です。

2 つのファイルは、それぞれ以下のように名前を付けられなければなりません (大文字と小文字を区別する):“ClassesByTeacherLoginName.csv”, “StudentsForClassByLoginName.csv”, “ClassesByTeacherMachineName.csv”, “StudentsForClassByMachineName.csv”, “ClassesByTeacherADName.csv” または “StudentsForClassByADName.csv”。これは教師名または生徒名用データエクスポート方法によります。

このデータをファイルにエクスポートし、適切に名前を付け、教師用コンピュータがアクセスできる任意のネットワークロケーションにコピーします。ほとんどの SIS ツールは、こういった種類のデータエクスポートをスケジュールすることが可能にしますが、そうでない場合、このデータを何度でも好きなだけファイル共有にエクスポートしてコピーすることができるクロンジョブ（cron job）を簡単に設定することができます。

これらファイルを Faronics と使うには、, 教師をインストール後、コンソールを起動させます。リストを読み込むためのステップは、1 つの例外を除いて Windows も Mac も同じです。「ダイナミッククラスリスト読み込み」メニューアイテムが、インストールダウンロードジメージ内 Windows フォルダ内で提供されるユーティリティとともに、Windows コンソール内で有効化されなければなりません。ADClassListShimCSV.exe ファイルを教師インストールのロケーションにコピーするだけ (通常は C:\Program Files\Faronics) で、フォルダ内に存在することでこのメニューアイテムが有効化されます。

1. 管理者メニューから、 *マンツーマン*をナビゲートし、*ダイナミックを読み込み*を選択します。
2. 教師と生徒の .csv ファイルを保存したロケーションを閲覧します。
3. 読み込みたいクラスと生徒を選択します。

同じメニューロケーションから、後ほど*現在のクラスを解除する*ことができます。

新しくやってくる生徒やクラスをかえる教師が自動的に対応されるよう、コンソールは常にこれらファイルに変更がないかチェックしています。

教師用コンピュータを使用する

Faronics Insight の使用モデルは、これまでのバージョンとほとんど同じです。教師用コンピュータ上では、システムトレイ内に小さな Faronics アイコンが表示されます（小さな緑色の多重の円のようなアイコンです）。システムトレイはコンピュータ画面の右下隅にあります。このメニューを使って Faronics の主要な機能を制御します。Mac では、ドックアイコンで Faronics メニューにアクセスできます。

より上級の機能は、Faronics コンソールにアクセスすると利用できます。コンソールには、Faronics システムトレイアイコンまたはドックアイコンを「左クリック」するか、または「開始」メニューを起動するとアクセスできます。

コンソールでは、主要な機能がツールバー上にアイコンとして表示されます。すべての機能にメニューからアクセスできます。また、コンピュータサムネイルを右クリックしても主要な機能にアクセスできます。

コンピュータサムネイルを選択する場合、すべてのコンピュータを選択するには *ctrl-a* を選択するか、*ctrl キー*を押したままでコンピュータのグループを 1 つずつ選択していくことをお奨めします。Mac では、*コマンド-a* ですべてのコンピュータが選択できます。サムネイル表示では、マウスで複数のコンピュータを選択するだけで複数のコンピュータを選択できます。

ツールバーボタンを使用する際は、クリックは 1 回で機能を使用可能にし、ボタンを押すことになります。ちょうどトグルスイッチのように、もういちどクリックするとその機能が無効化されます。

同じクラスルームに複数の教師用コンソール監視があることもあります。しかしながら、コンピュータ上の最初の教師のアクションのみが効力を持ち、その教師用コンソールのみがアクションを停止することができます。たとえば、教師が生徒の画面をブランクにすると、別の教師はその生徒の画面のブランクを解除することはできません。

生徒用コンピュータについて

Faronics は、生徒用コンピュータ上のバックグラウンドで実行するよう設定されます。ネットワークが適切に動作しており、マルチキャストまたは IP ディレクテッドブロードキャストで設定用ネットワークタブで適切な選択が行われている場合、生徒は、自分たちのチャネルの教師により自動的に検知されます。

Faronics 生徒のアイコン

Windows のコンピュータ画面の右下隅のシステムトレイ中に、Faronics アイコン（緑色の多重の円のようなアイコン）が表示されます。Mac では、画面上部に小さなアイコンとして表示されます。Ubuntu では、Faronics アイコンはパネルの中央にあります。

Windows または Mac では、アイコン上にカーソルを移動すると、どの教師チャネルがコンピュータにオンされているかを表示します。

生徒がこのアイコンを 1 回クリックすると、教師からのヘルプをリクエストできます。生徒が質問を入力すると、小さなクエスチョンマークが教師用コンソールに表示され、生徒が質問があることを示します。クエスチョンマークは、教師がその生徒とチャットするか、または*生徒の質問を消す*というメニューアイテムを使用した場合に消えます。

生徒がこのアイコンを右クリックすると、ファイルを送信 / 収集機能がファイルを送信する生徒ファイルフォルダが立ち上がります。

注意：Faronics 生徒アプリケーションのインストール中に生徒によるチャネルの変更を許可するオプションを選択した場合、生徒には参加したいチャネルを選択するメニューオプションが与えられ、またいつでも教師チャネルを退出することができます。

ユーザーインターフェースのヒント

Faronics は、シンプルにそして簡単に利用できるようデザインされています。ほとんどの機能は、Faronics システムトレイメニューまたはドッグアイコンからアクセスできます。より上級な機能は Faronics 教師用コンソールで利用できます。

機能はすべて、以下の 5 つのメニュー項目の中のどこかに分類されています：表示する、監視する、制限する、管理する、表示する。

注意：マルチポイントマネージャコンソール内で新型の Windows マルチポイントサーバ教師を使用している場合には、ほとんどの場合同じ機能とインタラクションが可能です。唯一の例外はクラスルームレイアウトオプションで、WMS 教師では利用できない機能となっています。そうでない場合、ツールバーのボタンは Windows と Mac 教師用コンソールと同じになっています。ボタンは、トグルスイッチというよりはむしろドロップダウンリストになっています。

Faronics ツールバーボタン

Faronics の機能を利用するには、個々の生徒を選択し、使用しようとしている機能に対応する Faronics ツールバーボタンを押します。ここでボタンが押され、明るい色に変わります。同じ機能の使用を停止するには、ボタンをもう一度クリックします。

Faronics ツールバーボタンの中には、ボタンの右に小さい矢印の付いたものがあります。ボタンをクリックすると、その機能の追加オプションにアクセスできます。

ボタンの追加、削除、移動は、*表示*をクリックし、PC では *ツールバーの設定* Mac では *ツールバーのカスタマイズ*をクリックしますが、新型 Windows マルチポイントサーバ (WMS) 教師では行えません。この教師バージョンは、マルチポイントマネージャコンソール内の非常によく似たツールバーにてアクセスすることができます。が、このツールバーは機能選択にはドロップダウンリストを提供しており、トグルスイッチとしては機能しません。

ウェブとアプリケーション制限の起動

ウェブとアプリケーション制限は起動する前に必ず設定しなければなりません。この機能は *優先設定*メニュー内で設定でき、メニューまたはツールバーを使って有効にします。

マウスの右クリック

Faronics 教師用コンソール内では、詳細またはサムネイルビューのいずれかで生徒用コンピュータを右クリックすると、さらに詳しい機能にアクセスできます。

複数選択

このリスト内の 1 名、複数または全部の生徒を選択することができます。

複数の生徒を選択するには、Windows の標準的な *ctrl* クリック方式を使用してください。また、全リストを選択する場合には、*ctrl-a* のキーを押しても選択できます。Mac では、*コマンド-a* ですべてのコンピュータが選択できます。

詳細ビューでは、選択されたラインは青に変わります。サムネイルビュー内で選択すると、そのサムネイルビューの周囲に太い赤の線が付きます。サムネイル表示内の Windows *ctrl* クリックを使用する必要はありません。サムネイル表示内で別のサムネイルをクリックすれば、複数のサムネイルを選択することもできます。

希望する生徒を選択したら、その生徒を右クリックし、詳細オプションメニューを開き、ツールバーボタンまたはコンソールメニューをクリックできます。

生徒の選択を外す

生徒の選択を外すためには、コンソールの空白の部分をクリックします。

暗黙ですべてを選択

生徒が選択されていない場合、「画面をブランクにする」や「教師を表示」のようなキー機能が有効化されると、暗黙のうちに全員が選択されます。たとえば、生徒が選択されていない場合、ブランク画面のツールバーボタンをクリックすると、生徒全員の画面がブランクになります。

画面の再読み込み

PC で F5、Mac で *コマンド R* を押すか、メニューアイテムの *表示 -> 更新* を選択すると、チャネル上の生徒用コンピュータの再探索が開始され、コンソールが更新されます。

並べ替え

標準設定では、詳細ビューは *ログイン名* の列でアルファベット順で並べられています。その他列の任意のヘッディングをクリックすると、リストは選択された列を並べ替えます。

Faronics システムトレイ メニュー または ドッグアイコン メニュー

システムトレイメニュー内の Faronics アイコンまたはドッグアイコンを右クリックすると、大部分の教師が毎日使用する機能を含んだメニューが立ち上がります。

システムトレイアイコンを左クリックすると、生徒に対して実行しているアクションが停止され、Faronics コンソールが立ち上がります。

Faronics メニューのホットキー

教師用コンピュータによっては、PC のタスクバーが表示されていないものもあります。表示されていないアイコンをクリックすることはできませんので、Faronics 教師のメニューは、*ctrl+alt+l* で立ち上げることができます。(“l” は Faronics を指します)。

選択のみ

サムネイルビュー内では、数台のコンピュータを選択して、*全てを表示* ボタンの矢印の下にある *選択のみ* メニューを押すと、選択した数台のマシンのみを見ることができます。

クラスルームレイアウト

クラスルームレイアウトでは、クラスルームの形でサムネイルを並べることができます。クラスルームのレイアウトは、サムネイルのそれぞれのサイズで自動的に保存されます。クラスルームのレイアウト表示に変えるには、*全てを表示* ボタンの右の矢印をクリックし、*クラスルームのレイアウト* を選択します。

「グリッドにスナップ」を利用すれば、教室レイアウトを表示したときのサムネイルの整列が簡単にできます。レイアウトをロックは、一旦設定したレイアウトが変更されないようにします。

ツールチップの表示

ツールチップの表示は、サムネイル表示内でツールチップを表示または無効化するのに使います。

サムネイルの拡大

全てを表示 ボタン上の拡大メニューを使えば、サムネイル上に留まって、一時的に大きなサイズに拡大させる機能をオン、オフできます。

Faronics Insight 新機能概要

Faronics Insight には数多くの機能がありますが、シンプルに、簡単に利用できるようデザインされています。今回のリリースに含まれている機能の一覧です。Windows、Mac と WMS 教師で利用できます。

Insight コネクションサーバー

Insight コネクションサーバーは、クライアント – サーバーアーキテクチャに基づいて Insight を実行する新しいオプション方法です。従来の Insight インストールはピアツーピアアーキテクチャに基づいています。Insight コネクションサーバーは、ルーターやワイヤレスアクセスポイントの構成を変更して、ワイヤレス環境や VLAN をサポートする必要性を軽減します。

現存のピアツーピアアーキテクチャは今後も存在し、Insight の優先インストール方法となる場合も多くあります。

Insight 7.7 はピアツーピアとクライアント – サーバーアーキテクチャが混在するハイブリッド環境もサポートします。

遠隔教育

Faronics はインターネット経由の遠隔教育を提供する最初のクラス管理ベンダです。クラス管理は学校ネットワーク内に制限されなくなります。先生は賞を受賞した Insight の機能を活用して遠距離にいる生徒を指導できるようになります。遠隔教育は Insight と webNetwork の webRelay テクノロジーの利点を組み合わせた完全エンドツーエンドのソリューションです。

Insight 遠隔教育の他に別途 webNetwork Unified Cloud Platform の購入が必要になります。詳細は sales@stone-ware.com までお問い合わせください。

クラウドからのクラスルーム管理

Insight では Insight クラスルーム管理を Stoneware の webNetwork Unified Cloud と統合できる新機能が導入されました。その結果、クラスルーム管理がクラウドで行えるようになりました。組織は BYOD (Bring Your Own Device) のクラス環境でクラウドに接続する生徒のクラスルーム管理が行えます。

このモデルの長所は、生徒と教師がローカルに Insight エージェントをインストールしておく必要がなくなったことです。生徒と教師は webNetwork Unified Cloud を認証して、適当な Insight オンデマンドエージェントを受信します。Insight オンデマンドエージェントはログオフまたは再起動されるまで、そのデバイスで実行されます。

詳細と詳しい実装については、このガイドの「Insight の仕組み」の項を参照してください。

拡張 iOS 教師アシスタント

iOS 教師アシスタントアプリには＊リモートコントロール生徒とリモートコントロール教師という新機能が搭載されています。リモートコントロール生徒を使用すると、教師は教室内で自由に動きながら、選択した生徒のマウスやキーボードをリモートでコントロールするアクセスを維持できます。リモートコントロール教師は、iOS 教師アシスタントアプリとペアになっている教師マシンからリモートコントロールセッションを提供します。リモートコントロール教師では Insight 教師用コンソールの全機能をリモートで使用したり、教師用マシンで起動中のあらゆるアプリケーションを教師あるいは教師アシスタントからリモートで使用できます。

＊iOS と Android デバイスは現在リモートコントロール機能に未対応です。

拡張 iOS 生徒

iOS 生徒には「教師を表示」と「生徒を表示」スクリーンブロードキャストを受信する機能が含まれています。生徒がウェブでやりとりをするとサムネイルビューを表示する、新しい Insight ウェブブラウザが生徒用には含まれています。さらに、iOS ウェブブラウザはウェブアクセスとウェブサイト履歴の表示を制限するように設定することができます。

Android 対応新機能

Faronics は Android バージョン 2.3、3.0、3.1、3.2 および 4.0 を使用しているスマートフォンおよびタブレットの生徒デバイスに対応しています。Insight Android で実行可能な機能 :

- 教師用コンソールで Android 生徒サムネイルを表示
- 「教師を表示」画面のブロードキャストを受信
- 教師からメッセージを受信
- Insight 教師が実施するテストの受信
- 教師に質問する
- リアルタイムの提出に往信する
- クラスのチャネル変更
- 在庫情報の収集
    - ·現在起動中のアプリケーション
    - ·ネットワーク情報
    - ·電池情報

Tech Console ディープフリーズサポート

ネットワーク管理者は Tech Console v7.7 を使用すると、対応コンピュータのディープフリーズ設定を集中管理できるようになりました。

Faronics は、ディープフリーズと呼ばれる Windows XP、Vista、Windows 7 および Mac 10.4、10.5、10.6 および 10.7 システム用のツールを提供しています。ディープフリーズは、ネットワーク管理者に、好ましい状態の保護など、共有コンピュータの設定により高度なオプションを提供します。ディープフリーズをインストールして有効にすると、ネットワーク管理者はディープフリーズの状態を変更できます。Tech Console は 2 つ設定のうち、実行されている方を表示し、ネットワーク管理者がその設定をリモートで変更することを可能にします。

*Faronics のディープフリーズソフトウェアとライセンスは含まれていません。ディープフリーズのライセンスは Faronics から購入できます。

Tech Console によるソフトウェアインストールの改良

ユーザーマシンへのソフトウェアパッケージのリモート配布は、スレッドにより改善されています。現在では複数インストールを同時に開始できます。

グループチャット

同一グループの複数の生徒が先生とチャットで会話できる機能

Faronics Insight 機能の概要

Faronics Insight には、これまでのバージョンと同様次のような機能もあります。

生徒画面の全画面表示またはウィンドウ表示

生徒画面を同じ生徒チャネルですべての生徒に表示することができます。

「全画面」か「ウィンドウ表示」の表示モードを選択できます。全画面モードでは、教師の画面が生徒画面の前面に表示され、生徒のマウスとキーボードをロックアウトします。

Windowed モードでは、教師の画面は生徒用コンピュータ上にウィンドウ表示されます。生徒はウィンドウをサイズ変更でき、教師の指示に従って以下の作業ができます。

コンピュータ画面を生徒用コンピュータに表示すると、スピーカーからの音も伝送されます。生徒は、この音によって Faronics セッションの開始を知らされます。このサウンドを変更するには、C:\Program Files\insight\start.wav と stop.wav を自分のサウンドと交換してください。Mac ではこれらのファイルは、“/Applications/Faronics /Teacher.app/Contents/Resources" に格納されています。

ログインされていない教師をコンピュータに表示する場合、常に全画面モードになります。

生徒画面の表示

生徒画面を他の生徒全部に送信したいという場合があるかもしれません。こうした場合は、その生徒を選択し、*生徒を示す*ボタンを押すだけで簡単に実行できます。ボタンが有効化されている間、生徒はマシンを制御し、画面がクラスの残りの生徒全員に表示されます。

画面に描く

このオプションは、赤ペンで画面に描くことができるようにするものです。マウスの左ボタンを押して、マウスを動かして描きます。このモードを終了させたい場合は、画面右上部隅の X 印をクリックして*画面に描く*ウィンドウを閉じます。

インターネットを一緒にブラウズ

「一緒にブラウズ」機能は、最初のタブを使ってウェブをブラウズし、選択した生徒用コンピュータ上のウェウブブラウザが実際に教師と同じ場所をブラウズするようにします。「一緒にブラウズ」機能は、Windows マシンのインターネットエクスプローラーでサポートされており、Mac では Safari でサポートされています。

生徒の投票

Faronics コンソールから、「はい / いいえ」を尋ねたり、多項選択の質問を出したりすることができます。リアルタイムで何名の生徒が回答したか、またその回答内容を表示します。

生徒のテスト

最大 100 の質問のテストを作成します。グラフィックも含めることができます (.jpg, .png, .gif, .bmp)。テストの質問はランダム化でき、1 名または複数の生徒の送信、リアルタイムで追跡できます。オプションとして、教師はテスト時間を計り、結果を生徒に表示し、結果を .csv ファイルにエクスポートすることができます。○ × 式、多項選択や短回答などの形式での質問が可能です。

プログラムの実行

生徒用コンピュータ上でアプリケーションまたはウェブサイトを実行する際に、このオプションを利用します。特定のウェブアドレスへナビゲートしたり、特定のアプリケーションを開始したりするのが難しい幼い生徒にはこの機能がかなり便利です。

リモートコントロール

選択した生徒の動きを制御することができます。言い換えれば、選択した生徒のコンピュータ上のマウスやキーボードをリモートで使用することができます。Faronics ならば、ログインのプロンプトでコンピュータをリモートコントロールすることさえできます。

リモートコントロール中にコンピュータに *ctrl-alt-del* コマンドを送信するためには、コントロールボタンの V 字をクリックして -> 送信 *（ctrl-alt-del メニュー）*するか、または*監視 ->ctrl-alt-del メニューを送信* します。

リモートコントロール中、Mac のコマンドキーは Windows の *Alt* キーにマップされ、*オプション*キーは *Windows* キーにマップされています。

複数のコンピュータを選択すると、グループ内の単一のコンピュータを表示中に同時に複数のコンピュータをリモートコントロールできるようになります。複数のコンピュータの制御は、マシンがまったく同じように見えるときにのみできます。

すべてを見る

これは、クラスの全コンピュータ画面を、小型、中型、大型、または特大のサムネイルで表示するものです。

サムネイルのイメージの上にマウスを動かすと、そのイメージの生徒のログイン名とコンピュータ名がツールチップに表示されます。生徒が教師に質問がある場合、その質問もこのツールチップ内に表示されます。サムネイルの上に 1 秒ほどかざすと、大きくなるオプションがあります。サムネイル表示を右クリックするとその生徒を制御するオプションメニューが出ます。

閲覧のみ

この機能を使えば、選択した生徒のコンピュータを監視することができます。監視中、生徒が行っているすべてを閲覧することができますが、生徒のキーボードやマウスを制御することはできません。

クラスルームレイアウト

サムネイルを教室の形で並べ替えることができます。各サイズのサムネイルにはそれぞれのレイアウトがあり、自動的に保存されます。教室レイアウトは、保存したり読み込んだり、ロックしたりすることができます。この機能には、*表示*メニュー内 *サムネイル*アイテムからアクセスします。この機能は、WMS 教師ではサポートされていません。

サムネイル閲覧モード（監視）

鮮明で色調の高い生徒サムネイルを、同時に最大 3000 まで表示します。各生徒画面は、Faronics コンソール内に「サムネイル」として表示されます。サムネイルには 4 種類のサイズがあり、自動的に最適な大きさに調整されます。*すべてを見る*ボタンをクリックして、*選択したものを見る*オプションをチェックすることで、選択した生徒だけを表示するようにすることもできます。

サムネイルの拡大

サムネイル上にマウスをかざすと、サムネイルのサイズが急速に拡大されます。この機能を使いたくない場合には、*すべてを表示*ボタンをクリックして、次に*拡大*をオプションから削除すると、解除されます。

デュアルモニター

デュアルモニターは、教師用コンソールと生徒用ソフトウェアでサポートされています。デュアルモニターのサムネイル表示では、分割画面表示されます。

アクティブアプリケーション / ウェブサイトアイコン

サムネイルの右上の隅に、アクティブアプリケーションとウェブサイトアイコンのオプションがあります。

プロファイルの読み込み / 保存

*表示*メニューで利用できます。*プロファイル*では後で迅速に読み込めるように主要な教師設定が保存されます。プロファイルに保存される設定は次の通りです。

- クラスリスト
- サムネイルのレイアウト
- ウェブ制限 URL とボタンの状況
- アプリケーション制限プログラムとボタンの状況
- 生徒用コンピュータ上のタスクマネージャ / アクティビティ監視を制限
- ドット付き 10 進法によるブラウジングを制限
- 印刷ボタン状況を制限
- USB ボタン状況を制限
- 無音ボタン状況
- ブランク画面のメッセージ

生徒画面のスナップショット

生徒の画面を標準的なグラフィックファイルに保存できます。(.jpg or .bmp) 日付、時間と生徒ログイン名が保存されたファイルに表示されます。

インタンーネット履歴表示

選択された生徒が訪問した検索可能なウェブサイトを表示します。これはファイルに保存することができます。この機能は、以下のサポートを受けているブラウザにアクセスして機能します：32 ビットインターネットエクスプローラー (6.x-9.x)、Firefox (3.x-5) と Chrome が Windows マシンのブラウザにサポートされています。Mac では、Safari と Firefox (3.x -5) の両方が、一定のウェブサイトを許可するようサポートされているブラウザです。

キーストロークとアプリケーションの監視

利用者がコンピュータに加えたすべてのアプリケーションとキーストロークを監視します。情報を保存するキーストロークファイルのサイズは、最大 300 kb またはタイプされたテキストで約 300 ページまで大きくすることができます。特殊文字はフィルタされて除外され、このファイルは検索可能です。この機能は、ログイン時の応答におけるキーストロークまたはパスワードのダイアログには対応しません。この機能は、全 Mac オペレーティングシステムと Windows 2000 以降の PC でサポートされています。報告書は検索可能で、ファイルに保存することができます。

生徒が実行しているアプリケーションを見る

生徒のコンピュータ上で実行しているアプリケーションを閲覧し、許可リスト、またはブロックリストへそれらを追加します。ダイアログ欄から直接実行中のアプリケーションを見ることもできます。

メッセージの送信

一部または全部の生徒にメッセージを送信します。気が散っている生徒をタスクに戻す効果的な方法としてしばしば利用されます。PC の場合、生徒の右下の隅か、Mac の場合右上の隅にメッセージが表示されます。Ubuntu の場合、画面の中央に表示されます。

生徒の質問

生徒は、Faronics アイコンをクリックして、教師への質問を入力できます。質問のマークが、生徒のコンピュータまたはサムネイルに表示されます。「詳細」ビュー内の、「最後の質問」の列で生徒からの質問を見ることができます。サムネイル表示では、マウスをサムネイルイメージ上にかざすとトップツールに質問が表示されて見ることができるようになります。

教師はチャットセッションまたはサムネイルを右クリックすると疑問符＝？を作成することができます。

テキストチャット

教師用コンソールからひとりの生徒へテキストベースのチャットセッションを開始します。

ランダムに生徒を選択

教師は、この機能を使って Faronics にランダムに生徒を選択させることができます。生徒の注意を呼び覚まし参加を促す楽しいやり方です。

画面をブランクにする

あなたのチャネル上で生徒全員の画面をブランクにし、生徒全員のキーボードとマウスを無効にします。この機能は、コンピュータで遊ぶ生徒に邪魔されずに授業をしたい場合に便利です。メッセージは、「優先設定」メニューでカスタマイズできます。画面をブランクにし、リストから別のメッセージを選択することにより、すでに作成済みのどのメッセージも回転させることができます。また、以下の変数をブランク画面のメッセージに含めることで、メッセージはおのおのの生徒向けに個別化することができます：

% 生徒名 %

% ログイン名 %

% マシン名 %

生徒のウェブブラウジングを制限

生徒全員または一部が全ブラウザからウェブにアクセスすることを一時的に無効にします。*

優先ダイアログ内で、なにをブロックするか選択することができます ...

- 全ウェブ活動
- 一定のウェブサイトを許可する
- 一定のウェブ活動をブロックする

この機能は「優先設定」ダイアログ内で設定する必要があり、その後で「ウェブ制限」ボタンまたはメニューアイテムをクリックして機能を有効にします。

許可済みウェブサイトとブロック済みウェブサイトの両方において、ウェブサイトを指定するために “*” や “?” をワイルドカードとして使用することができ、一定の種類のウェブサイトを制限することが簡単になっています。

インターネットが無効になっているとき、教師用コンソールと生徒用コンピュータの両方でウェブが無効になっていることをアイコンが示します。

生徒が許可されていないウェブサイトをブラウズしようとすると、許可されたウェブサイトにリストされているサイトをオプションで表示することができます。

注意：32 ビットインターネットエクスプローラー (6.x-9.x)、Firefox (3.x-5) と Chrome が Windows マシンのブラウザにサポートされています。Mac では、Safari と Firefox (3.x -5) の両方が、一定のウェブサイトを許可するようサポートされているブラウザです。全ウェブブラウザの全作業をブロックします。

生徒アプリケーションを制限

全員または一部の生徒に一時的に特定のソフトウェアアプリケーションを制限します。この機能は*優先設定*ダイアログ内で設定する必要があり、その後で*アプリケーション制限*ボタンまたはメニューアイテムをクリックして機能を有効にします。内部プログラム名が使われているため、生徒は単にアプリケーションの名前を変更することでこの機能を避けることはできません。

生徒プリンタの無効化

一部または全部の生徒のプリンタを一時的に無効化することができます。無効にされると、生徒はあなたがプリンタを再び有効化するまで印刷できなくなります。

ドライブ制限

コンソールから、生徒によるサムドライブの USB 接続を制限できます。SB のキーボード、マウスには影響しません。この機能は、全 Mac オペレーティングシステムと Windows 2000 以降の PC でサポートされています。

タスクマネージャ（PC）またはアクティビティ監視（Mac）の制限

このオプションは、機能がまず教師インストールで選択されているかにより、有効化されたり無効化されたりします。インストール中に選択されると、*優先*ダイアログのオプションをチェックすることによりタスクマネージャやアクティビティ監視を実行することができます。

禁止用語の警告

生徒が禁止用語リストにある語をタイプすると、教師は警告を受けます。生徒のサムネイル上に警告アイコンが表示され、アイコンの上にマウスをかざすと禁止用語が表示されます。禁止用語のリストは、「優先設定」メニューの「キーストローク警告」タブをクリックすると特定できます。

自動リスニングとブロードキャスト

生徒のマイクから聞き、教師のマイクから生徒にブロードキャストします。

教師の画面が生徒に表示されている間、オーディオが生徒用コンピュータにブロードキャストされます。この機能は、*表示*メニューをクリックし、次に*教師のマイクから生徒にブロードキャスト*をクリックすると有効化されます。

ある生徒のマイクを聞いてその生徒とチャットをしたい場合、「監視」メニューをクリックして、*教師のマイクを有効化 (制御中に)* と*のマイクを有効化 (制御中に)* をクリックします。

注意：Mac 生徒のオーディオを聞くのは、OSX v10.5 以降のバージョンでないと聞けません

無音化

教師は、生徒用コンピュータの音を無音化できます。この機能は、*無音ボタン*、または *制限*メニュー内の*生徒のスピーカーを無音にする*メニューを使って使用します。

マルチキャストビデオとプレイバック

ビデオを学生コンピュータに効率的に伝送するために、ビデオファイルを学生コンピュータにマルチキャストし、プレイバック制御を同期化することができます。ビデオをプレイするためには、PC には Windows MediaPlayer と適切なコーデックが教師と生徒にインストールされていなければなりません。Mac の場合、Quicktime をプレイできるどのビデオもサポートされています。

ビデオが適切に動作しない場合、そのファイルタイプ用の最新のコーデックがインストールされているか再確認してください。

ノートブック用電池モニタリング

ノートブックまたは iPod の電池状況を監視します。充電量が 50%を下回ると、黄色い、緊急用の電池アイコンが表示されます充電量が 20%を下回ると、赤い、緊急用の電池アイコンが表示されます残りのパーセンテージと A/C 状態も、「プロパティ」メニューから見ることができます。

シャットダウン、ログオフ、再起動

教師用コンソールから、生徒用コンピュータのシャットダウン、ログオフ、または再起動が実行できます。

リモートログイン

ユーザーがパスワードを持っている場合、教師のコンソールから Windows マシンにリモートでログインでき、歓迎画面に表示されることはありません。これは、生徒に名前をタイプさせる代わりに最後にログインに成功したユーザーのアイコンを表示する画面です。通常、ネットワークドメインの一員であるコンピュータに歓迎画面にログインすることはできませんが、単にワークグループのメンバーであるほとんどの PC ではデフォルトです。希望する場合、これらマシンのふるまいを修正することができます。歓迎画面からデフォルト名とパスワード画面に手動で変更するステップは、XP と Vist、Windows 7 では違います :

XP

1. 管理者であるユーザーは、コントロールパネルのユーザーアカウントを開きます。
2. ユーザーがログオンとオフするやり方を「変更」をクリックして変更します。
3. 「歓迎画面を使う」のチェック欄をクリアします。

Vista と Windows 7

管理者の権限を持つユーザーとして、コントロールパネルの管理者ツール内ローカルセキュリティポリシーを開きます。

セキュリティ設定 -> ローカルポリシー -> セキュリティオプションに進みます。

右手パネルに「インタラクティブログイン：最後のユーザー名を表示しない」ポリシーがあるので見つけ、そのポリシーを有効化します。

注意：リモートログインは Mac や Ubuntu の生徒にはサポートされていません。

生徒の電源オフ

生徒用コンピュータに対して、ログオフ、再起動または電源を切ります。

この機能は Windows 9x のコンピュータでは問題が発生する可能性があります。Microsoft はこの機能は一定のハードウェア上では動作しないと明言しています。Compaq、Dell や IBM コンピュータでは試行されて成功していますが、Windows 98 や ME オペレーティングシステムのコンピュータを動作させている全ブランドやモデルでは適切に電源を切れない場合があります。（Microsoft 基礎知識記事 Q220706 を参照してください。）

リモート更新

生徒がコンピュータにインストールされたら、教師用コンソールからそれら生徒を更新することができます。この機能のさらなる詳細については、インストールガイドの「Faronics Insight をリモート更新」の項を参照してください。

電源オンまたはウェイクオン LAN

生徒用コンピュータが「ウェイクオン LAN」テクノロジーを利用するよう設定されていれば、Faronics 教師は、全生徒の PC の電源を入れることができます。

BIOS のほとんどのコンピュータは、ウェイクオン LAN オプションがオフになった状態で出荷されます。したがって、起動時に BIOS 設定に行きオンにしなければなりません。

Apple 版のウェイクオン LAN では、Mac はスリープから起きますが、オフになっている Mac の電源をオンにはしません。

セキュリティステータスの監視

Faronics セキュリティ監視ツールは、*ステータスウィンドウを見る*をクリックしてアクセスできます。この機能は、全 Faronics トラフィックを表示しますので、否認証の Faronics 活動を識別することができます。

ダウンロード製品のユーティリティフォルダ内に新しく加えられた *SecurityMonitor.exe* を起動して、Faronics の全活動をファイルとしてログし、タイプ、教師別にそれらのメッセージをフィルタすることもできます。

安全モード

Faronics は、コンソールへのアクセスにパスワードを要求するよう設定できます。このパスワードは、生徒の安全インストールの間に入力されたパスワードと一致していなければなりません。「Faronics Insight を安全モードでインストール」（*Faronics Insight ユーザーガイド* (users.pdf) 内）を参照してください。

不正変更防止

Faronics Insight では、生徒がいたずらしてソフトウェアをアンロードしたり、ネットワークケーブルの接続を外して授業を妨害したりできないようになっています。

見やすいマウスカーソルの動き

生徒が教師のカーソルを見やすくするために、生徒ビューには大きな赤いカーソルが表示されます。これらカーソルは、本物のカーソルと同じ形ですが、大きさが 4 倍で、鮮やかな赤色です。

NetWare 対応

コンピュータが NetWare クライアントソフトウェアを使用している場合、Faronics Insight では、Microsoft のログイン名ではなく NetWare のログイン名を使用します。

マルチキャスト対応

TCP/IP を使用することの利点のひとつは、マルチキャストを利用できることです。マルチキャストを利用すれば、ネットワーキングのハードウェアはローカルの Faronics の各コンピュータとクロスサブネットへの Faronics トラフィックを保持することができます。ネットワークルータまたはスイッチによってはマルチキャストに対応していないものもありますので、このオプションは標準設定では無効になっていますが、*ネットワークタブ*上の*優先設定*メニュー内で簡単に有効に変更できます。

チャネルのグルーピング

教師は、数がいくつであってもまとめて同時に制御することにより、任意の特定のチャネルまたはグループを制御することができます。デフォルトでは、教師はチャネルを変更不可能な状態でインストールされています。ホームチャネルの変更やグループ制御で複数チャネルを見ることができるようにするためには、Insight 管理者に問い合わせして支援を受けてください。これを有効化する方法は、*Faronics Insight インストールガイド* (install.pdf) にあります。

リストの更新

このオプションを選択するか、PC のショートカットキー F5、または Mac の *command+r* を利用することで、リストを更新し、クラスに入ってきた新しい生徒を見ることができます。これは 3 分ごとに自動的に起こります。

生徒用コンピュータになる

教師用コンピュータを一時的に生徒用コンピュータにしたい場合、教師用コンソールから行うことができます。*管理者*をクリックして*生徒用コンピュータになる*をクリックするだけです。生徒用コンピュータの状態は再起動するか、現在のユーザーがログオフするまで続きます。

選択した生徒をクラスから取り除く

この機能は、選択した生徒のコンピュータ上の Faronics ソフトウェアを一時的に無効化します。ソフトウェアは、生徒が次回コンピュータにログインする時か、生徒用コンピュータ上で*選択した生徒をクラスに戻す*を生徒が使用した場合に、再度有効化されます。

生徒用コンピュータが無効化されてもまだリストには表示されますが、グラフィックの停止サインがコンピュータ画面上に表示されます。この表示は、Faronics がその生徒を制御していないことを教師に知らせるためのものです。

マシンの表示名を変更

このオプションは、コンピュータの実際のコンピュータ名を変更するものではありません。その代わりに、Faronics のコンピュータ名フィールド内に別の名前を表示させることができます。Windows では、お使いのコンピュータが意味のあるコンピュータ名を持っていない場合、このオプションを使ってコンピュータに使いやすい名前を付けることができます（例：「列 1 コラム 5」）。

Mac では、教師サポートから利用できる名前変更の「Setname」ユーティリティがあります。Mac 生徒に与えられる名前は、/Library/Preferences/com.insight.student.config.plist と呼ばれるファイルで制御されています。スクリプトが与えられて名前を使って名前ファイルを書きます。なにも与えられない場合には、「共有」優先設定パネルに示されている表示名を現在のコンピュータ名に設定します。スクリプトが効力を持つ多面は、ルートとして動作しなければなりません。

たとえば、Mac の生徒表示名を “Library1” に変更します :

sudo 設定名 “Library1l”

別の例では — 表示名を現在のコンピュータ名に設定します :

sudo 設定名

名前の変更を見るためには、教師用コンソールを更新しなければなりません。

選択した生徒の Faronics を更新

選択した生徒のコンピュータに Faronics の新規バージョンを手早くインストールする際に使用します。この機能を有効にする場合は、*Faronics Insight インストールガイド*で詳細を参照してください。

コンソールからの生徒チャネルの変更

教師用コンソールから生徒チャネルを変更します。これは、*EnableChannelSelect.exe* ユーティリティで必ず管理者が対応しなければなりません。このトピックに関する詳細情報は *Faronics Insight インストールガイド*(install.pdf) を参照下さい

アクティブディレクトリから生徒名

Faronics は通常、Windows または Novell のログイン名を表示します。新しいバージョンでは、アクティブディレクトリに生徒表示の名前があれば、その名前がログイン名の列に表示されるようになりました。

ツールバーの構成設定

ツールバーは、*ビュー -> ツールバーの設定*でカスタマイズできます。PC では、ボタンを新しい位置にドラッグするか、ボタンバーからドラッグして除外して「*alt*」キーを押しながらでも設定することができます。*ツールバーをカスタマイズ*ウィンドウのデフォルトからツールバーをリセットすることもできます。

表示されているよりもバーにあるボタンが多い場合は、ツールバーの右上隅の「>>」ボタンを使ってアクセスできます。

教師用キオスクモード

Faronics 教師用コンソールは、最小化できないように、または閉じられないようにしても利用できます。Faronics 教師用コンソールをキオスクモードで実行するためには、*Faronics Insight インストールガイド*(install.pdf) を参照してください。

プロパティ ページ

プロパティ ページは、どの教師がある生徒に対してどんなアクションを取っているか知りたいときに役に立つトラブルシューティングのツールです。また、電池の残りとチャージ状態も表示します。

優先設定

Faronics の動作方法を優先設定できます。更なる詳細は、「Faronics 構成の優先設定」の項を参照してください。

注意：ネットワーク上に Faronics を設定したシステム管理者は、おそらくインストール中に各種設定を最適化している可能性があります。カスタム設定を変更する前に設定をした管理者に相談してみることをお薦めします。

別のコンピュータ上でテストビルダーを使用

教師は自宅のコンピュータや学校のネットワーク以外のコンピュータでテストを作成したいときもあるでしょう。

Faronics 教師用コンピュータ以外のコンピュータでテストを作成するには、次の手順に従います：

1. マイ コンピュータから、c:\Program Files\Faronics をブラウズします。Mac では Applications\Insight\Testing をブラウズします。
2. Windows では、テスティングディレクトリを、サムドライブや CD、ネットワークドライブにコピーします。Mac では、Testbuilder.app をコピーします。
3. Windows では、サムドライブや CD、ネットワークドライブから テスティングディレクトリを、任意の Windows 搭載コンピュータにコピーします。Mac では、*Testbuilder.app* を任意のロケーションに貼り付けます。
4. Windows では、*Testbuilder.exe* をダブルクリックして Faronics テストビルダーを起動します。Mac では、*Testbuilder.app* をダブルクリックします。
5. テストを作成。
6. テストを保存。
7. 保存したテスト (.lst files) を Windows なら c:\Program Files\Faronics \Testing フォルダにコピーしなおし、Mac なら Applications\Insight\Testing フォルダにコピーしなおします。
8. 新しく作成されたテストをブラウズし、Faronics 教師用コンソールを使って生徒に送付する。

Faronics セキュリティ監視

Faronics のような強力なツールでは、常に悪用される危険があります。生徒が不正コピーを探したり、教師ソフトウェアを読み込んでみたりしたい誘惑にかられ、クラスの進行を妨害してしまうこともあり得ます。

潜在的な悪用に対処するためには 3 つの方法があります。

1. 適切な行動についての学校の方針を設定し、その方針を監視、実行します。
2. Faronics Insight をアクティブディレクトリ安全モードにインストールします。この場合、教師は生徒用コンピュータを管理するには「 Faronics 教師」というドメイングループに属している必要があります。（推奨されるメソッド）
3. Faronics Insight をパスワードが必要な安全モードでインストールします。

セキュリティ監視

セキュリティモニターは、Faronics ダウンロードファイル上のユーティリティフォルダでも利用できます。このアプリケーションはどの生徒 PC でも実行できるもので、Faronics プログラムのインストール、アンインストールを含む Faronics のアクティビティについてのログを記録します。

このユーティリティがあれば、大概、クラスルームの「適切な使用方針」を悪用した生徒を学校が素早く見つけることができます。

*表示*それから*ステータスウィンドウ*を続けてクリックしても、教師はセキュリティ監視データにアクセスできます。アクションを実行次第、セキュリティメッセージが表示されます。

以前のバージョンでは、Faronics のデモバージョンをダウンロードしてインストールした生徒たちが最大のセキュリティ問題を引き起こしました。*Faronics v6.1* 以降、デモバージョンはリリース済のバージョンとの連携はありません。

Faronics 構成の優先設定

この優先設定ダイアログには、管理者と教師両方に関する設定が含まれています。以下は、教師が変更する可能性のある設定です：

全画面またはウィンドウ表示

- 全画面表示では、生徒画面上に教師の画面を全面的に表示し、生徒のキーボードとマウスは無効化されます。
- Windowed は教師の画面を生徒の画面にサイズ変更可能な状態で表示し、生徒のキーボードやマウスを無効化しません。

デュアルモニターの表示

教師用コンソールと学生用のデュアルモニターの対応をオンにします。

ブランク画面のメッセージ

生徒の画面がブランクになっているとき表示するメッセージを、教師が指定できるようにします。

サウンド

「教師を表示」または「生徒を表示」ボタンが押されたとき、教師がプレイされるサウンドを切ることができるようにします。

生徒用コンピュータ上のタスクマネージャ / アクティビティ監視を制限

PC でタスクマネージャが、Mac でアクティビティ監視がチェックされているとき、無効化されます。ハッキングや Faronics への不正行動を防ぐのに役立ちます。

IP アドレスとインターネットエクスプローラーの InPrivate ブラウズを制限

何名かの生徒は、IP アドレスを使って Faronics のウェブ制限機能を避けていました。このオプションが選択されると、生徒は IP アドレスを使ってウェブをブラウズすることができなくなります。(例. http://70.235.50.6)

Faronics は、インターネットエクスプローラーの InPrivate ブラウズ機能も制限します。

ウェブ制限

ウェブ制限を有効にする条件を指定します。

- すべてのウェブブラウジングをブロック
- 次のウェブサイトのみ許可
- 次のウェブサイトをブロック

ウェブサイトリストの保存と読み込みが可能です。"*" や "?" といったワイルドカードが使えます。Windows の生徒は、Windows インターネットエクスプローラー、Firefox と Chrome でウェブを制限されます。Mac の生徒は、生徒が Safari を使用しているときのみウェブを制限されます。

アプリケーション制限

ウェブ制限を有効にする条件を指定します。

- 次のアプリケーションのみ許可
- 次のアプリケーションをブロック

アプリケーションを許可またはブロックのリストに追加するためには、優先設定ダイアログ内の追加ボタンをクリックするか、「生徒の実行プログラムを見る」をクリックします。優先設定ダイアログは、教師の PC で実行中のアプリケーションを表示します。

アプリケーションリストは保存と読み込みができます。

実行中のアプリケーションのアイコンをサムネイルに表示

この機能が有効になっていれば、生徒 PC 上で現在実行中のウェブサイトがサムネイルの左上部隅にアイコンで表示されます。

最新訪問したウェブサイトのアイコンをサムネイルに表示

この機能が有効になっていれば、生徒が最後に訪問したウェブサイトがサムネイルの左上部隅にアイコンで表示されます。

生徒用コンピュータの Faronics フォルダのフルパス

教師が生徒ファイルのデフォルトの場所を指定できるようにします。このパスは、ローカルドライブでもネットワーク ドライブでもかまいません。

ドライブ制限

「ドライブ制限」ボタンを押したとき、ブロックされるドライブの種類を指定します。

キーストローク警告

生徒がタイプしたら警告を与える語のリストを作成、保存、読み込みます。各語は、改行キーで分けます。

注意：ネットワークタブのような追加オプションがあり、これらはインストールマニュアルで説明されており、システム管理者のみが変更することができます。